

乳がん、子宮頸がん検診 プロセス指標

プロセス指標とは

市町村の行うがん検診の各プロセス(対象者への受診勧奨、スクリーニング、要精検者への精密検査受診勧奨、精密検査の精度、事業評価)が適切に行われているか評価するための指標。

1 乳がん検診

受診率・県全体・過去4年間の推移 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～69歳を集計)

	受診率(%)		対象者数	当該年度 受診者数	前年度 受診者数	2年連続 受診者数
	全国	山梨県				
H29	17.4	25.5	175,501	27,367	29,329	10,676
H30	17.2	25.2	170,940	26,897	28,065	9,852
R1	17.0	24.8	168,395	25,384	26,374	9,467
R2		23.6	165,446	20,831	25,384	7,118

・R2の当該年度受診者数20,831人のうち、国保被保険者は8,357人(約4割)

注 H29、H30、R1については、国が公表する地域保健・健康増進事業報告より算出。受診率は計数が不詳の市町村を除いた値。R2については、県が各市町村に対して独自に調査。

精検受診率等・県全体・過去4年間の推移 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～74歳を集計)

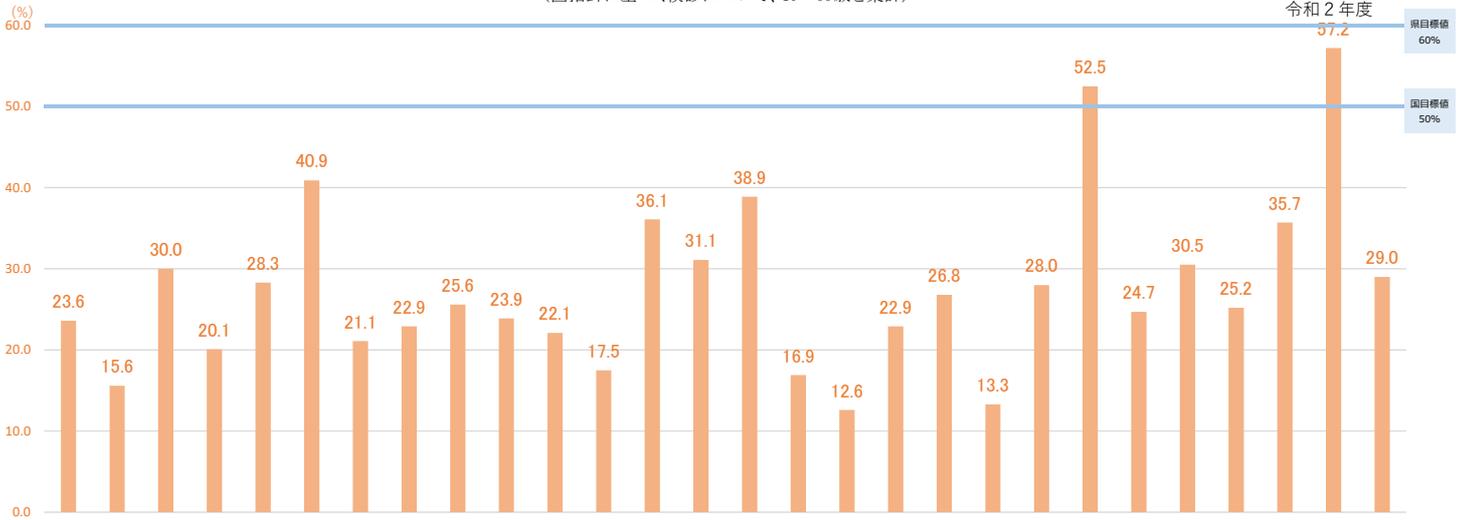
許容値	11.0	80.0	10.0	10.0	0.23	2.5
目標値		90.0	5.0	5.0		

	要精検率 (%)	受診者数	要精検 対象者	精検受診率(%)		未受診率 (%)	未把握率 (%)	精検 受診者	未受診者	未把握者	がん発見率 (%)	陽性反応 適中度 (%)	がんで あった者
				全国	山梨県								
H28	3.9	34,628	1,356	87.8	89.1	5.5	4.4	1,208	75	60	0.17	4.4	60
H29	4.1	33,903	1,403	88.8	84.5	9.4	6.1	1,186	132	85	0.18	4.3	60
H30	3.7	32,332	1,184	89.2	86.2	7.3	6.5	1,021	87	77	0.22	6.0	71
R1	3.5	31,354	1,090		86.0	7.1	7.0	937	77	76	0.20	5.8	63

注 H28、H29、H30については、国が公表する地域保健・健康増進事業報告より算出。R1については、県が各市町村に対して独自に調査。

受診率・市町村別 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～69歳を集計)



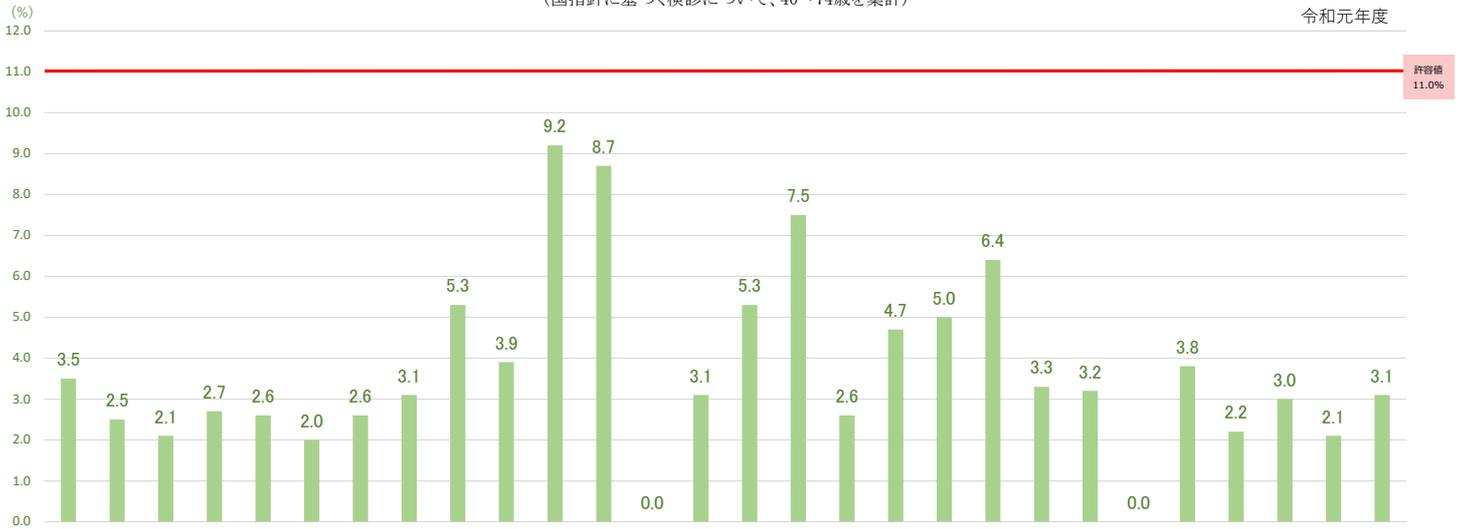
	山梨県	甲府	甲斐	碓氷	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	道志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郎	早川	身延	南部	富士川
受診率 (%)	23.6	15.6	30.0	20.1	28.3	40.9	21.1	22.9	25.6	23.9	22.1	17.5	36.1	31.1	38.9	16.9	12.6	22.9	26.8	13.3	28.0	52.5	24.7	30.5	25.2	35.7	57.2	29.0
対象者	165,446	36,826	14,999	6,039	14,642	6,429	9,710	3,977	6,880	14,083	6,260	9,976	360	911	1,664	1,227	627	5,393	5,889	4,915	4,792	120	97	2,996	147	2,050	1,469	2,968
R1受診者	25,384	4,090	3,604	726	2,172	1,286	1,368	514	956	2,272	468	1,287	92	197	419	135	58	719	1,265	391	1,097	37	20	530	30	427	580	644
R2受診者	20,831	3,156	3,175	582	1,973	1,806	679	396	805	1,575	916	858	76	99	283	114	44	694	688	277	637	31	15	463	34	326	568	561
2年連続受診者	7,118	1,483	2,272	94	0	464	0	0	0	482	0	399	38	13	55	42	23	177	375	15	391	5	11	80	27	22	307	343

注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

・受診率 = (R1受診者 + R2受診者) - 2年連続受診者 ÷ 対象者

要精検率・市町村別 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～74歳を集計)



	山梨県	甲府	甲斐	碓氷	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	道志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郎	早川	身延	南部	富士川
要精検率 (%)	3.5	2.5	2.1	2.7	2.6	2.0	2.6	3.1	5.3	3.9	9.2	8.7	0.0	3.1	5.3	7.5	2.6	4.7	5.0	6.4	3.3	3.2	0.0	3.8	2.2	3.0	2.1	3.1
受診者	31,354	5,295	4,592	911	2,643	1,589	1,752	391	1,216	2,798	533	1,498	120	129	469	146	76	830	1,593	468	1,428	31	23	708	46	494	727	848
要精検者	1,090	133	98	25	69	31	46	12	65	109	49	131	0	4	25	11	2	39	79	30	47	1	0	27	1	15	15	26

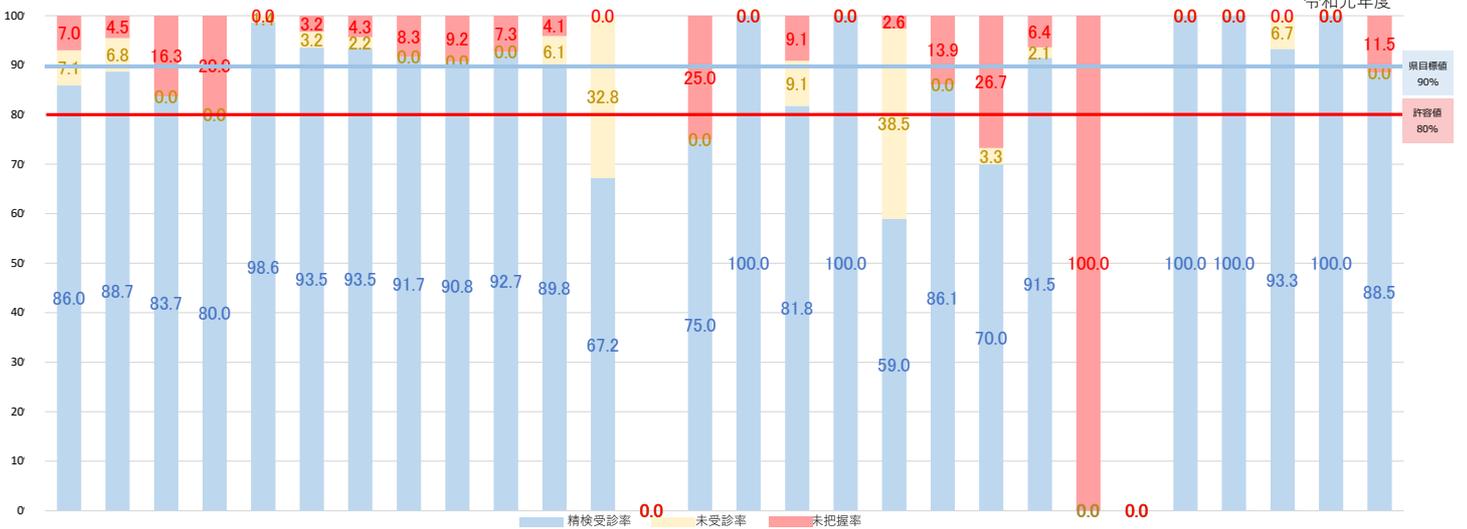
注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

・要精検率 = 要精検者 ÷ 対象者

・要精検率は、受診者数が少ない場合はバラツキが大きくなるため、評価を行う場合には注意が必要。

精検受診率、未受診率、未把握率・市町村別 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～74歳を集計)



	山梨県	甲府	甲斐	葦崎	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	道志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郷	早川	身延	南部	富士川
精検受診率(%)	86.0	88.7	83.7	80.0	98.6	93.5	93.5	91.7	90.8	92.7	89.8	67.2	-	75.0	100.0	81.8	100.0	59.0	86.1	70.0	91.5	0.0	-	100.0	100.0	93.3	100.0	88.5
未受診率(%)	7.1	6.8	0.0	0.0	1.4	3.2	2.2	0.0	0.0	0.0	6.1	32.8	-	0.0	0.0	9.1	0.0	38.5	0.0	3.3	2.1	0.0	-	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
未把握率(%)	7.0	4.5	16.3	20.0	0.0	3.2	4.3	8.3	9.2	7.3	4.1	0.0	-	25.0	0.0	9.1	0.0	2.6	13.9	26.7	6.4	100.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5
精検受診者	937	118	82	20	68	29	43	11	59	101	44	88	0	3	25	9	2	23	68	21	43	0	0	27	1	14	15	23
未受診者	77	9	0	0	1	1	1	0	0	0	3	43	0	0	0	1	0	15	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
未把握者	76	6	16	5	0	1	2	1	6	8	2	0	0	1	0	1	0	1	11	8	3	1	0	0	0	0	0	3

注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

・精検受診率=精検受診者÷要精検者、未受診率=未受診者÷要精検者、未把握率=未把握者÷要精検者

・許容値は精検受診率が80%以上、未受診率、未把握率が10%以下。県の目標値は精検受診率が90%以上、未受診率、未把握率が5%以下。

がん発見率・市町村別 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～74歳を集計)

令和元年度

	山梨県	甲府	甲斐	葦崎	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	道志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郷	早川	身延	南部	富士川
がん発見率(%)	0.20	0.25	0.11	0.22	0.30	0.06	0.34	-	0.08	0.29	0.38	0.20	-	-	0.21	-	-	0.12	0.06	0.43	0.14	-	-	0.56	-	0.40	-	0.12
受診者	31,354	5,295	4,592	911	2,643	1,589	1,752	391	1,216	2,798	533	1,498	120	129	469	146	76	830	1,593	468	1,428	31	23	708	46	494	727	848
がんであった者	63	13	5	2	8	1	6	0	1	8	2	3	0	0	1	0	0	1	1	2	2	0	0	4	0	2	0	1

注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

・がん発見率=がんであった者÷受診者

・許容値は0.23%

・がん発見率は、精検受診率が低い場合や、受診者数が少ない場合はバラツキが大きくなるため、評価を行う場合には注意が必要。

陽性反応適中度・市町村別 乳がん検診

(国指針に基づく検診について、40～74歳を集計)

令和元年度

	山梨県	甲府	甲斐	葦崎	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	道志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郷	早川	身延	南部	富士川
陽性反応適中度	5.8	9.8	5.1	8.0	11.6	3.2	13.0	-	1.5	7.3	4.1	2.3	-	-	4.0	-	-	2.6	1.3	6.7	4.3	-	-	14.8	-	13.3	-	3.8
要精検者	1,090	133	98	25	69	31	46	12	65	109	49	131	0	4	25	11	2	39	79	30	47	1	0	27	1	15	15	26
がんであったもの	63	13	5	2	8	1	6	0	1	8	2	3	0	0	1	0	0	1	1	2	2	0	0	4	0	2	0	1

注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

・陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者

・許容値は2.5%

・陽性反応適中度は、精検受診率が低い場合や、受診者数が少ない場合はバラツキが大きくなるため、評価を行う場合には注意が必要。

2 子宮頸がん検診

受診率・県全体・過去4年間の推移 子宮頸がん検診

(国指針に基づく検診について、20～69歳を集計)

	受診率(%)		対象者数	当該年度 受診者数	前年度 受診者数	2年連続 受診者数
	全国	山梨県				
H29	16.3	19.9	257,544	35,092	35,700	19,232
H30	16.0	19.7	250,237	34,091	35,591	16,982
R1	15.7	19.3	245,847	30,293	33,720	15,346
R2		18.8	241,536	28,493	30,293	13,395

・R2の当該年度受診者数28,493人のうち、国保被保険者は8,372人(約3割)

注 H29、H30、R1については、国が公表する地域保健・健康増進事業報告より算出。受診率は計数が不詳の市町村を除いた値。R2については、県が各市町村に対して独自に調査。

精検受診率等・県全体・過去4年間の推移 子宮頸がん検診

(国指針に基づく検診について、20～74歳を集計)

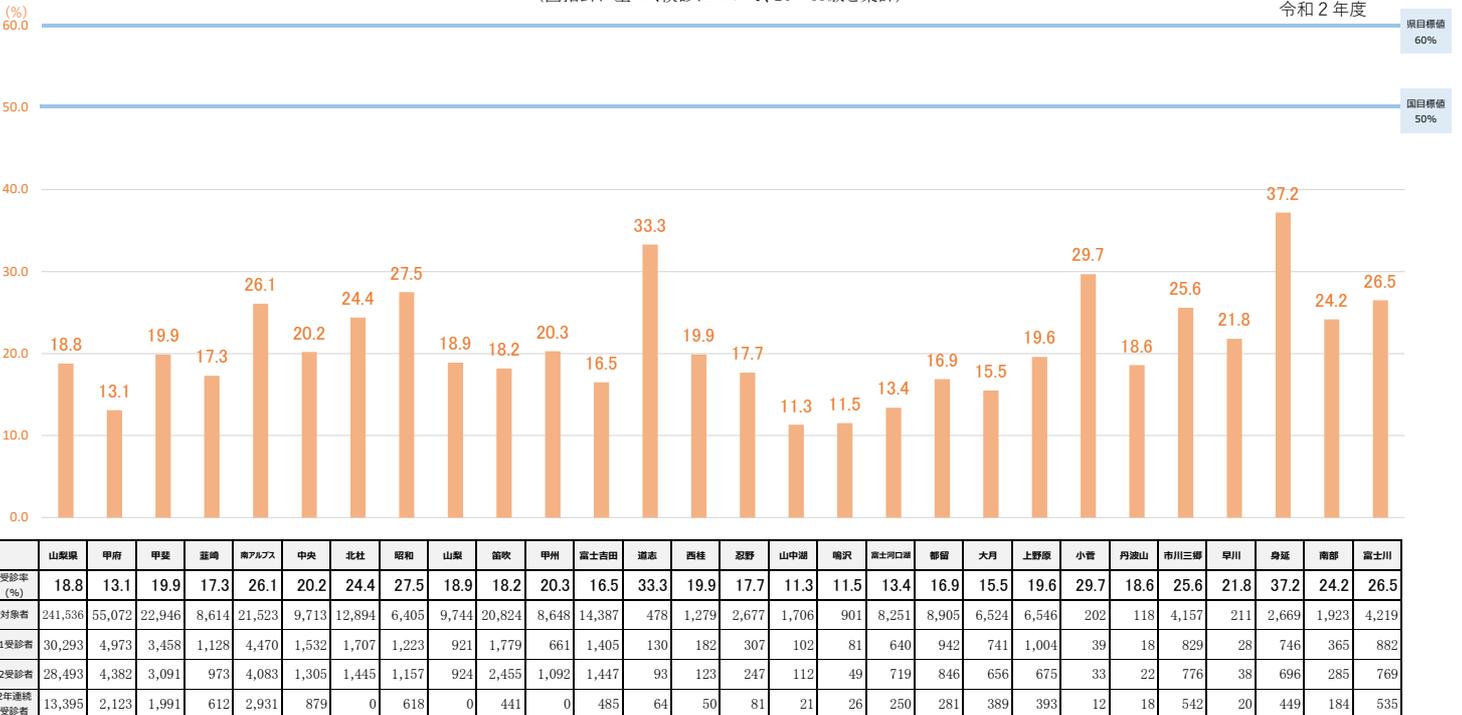
許容値	1.4	70.0	20.0	10.0	0.05	4.0
目標値		90.0	5.0	5.0		

	要精検率 (%)	受診者数	要精検 対象者	精検受診率(%)		未受診率 (%)	未把握率 (%)	精検 受診者	未受診者	未把握者	がん発見率 (%)	陽性反応 適中度 (%)	がんで あった者
				全国	山梨県								
H28	1.4	39,529	553	75.4	67.6	12.3	20.1	374	68	111	0.01	0.5	3
H29	1.4	39,807	564	75.2	64.0	9.0	27.0	361	51	152	0.02	1.1	6
H30	1.5	38,061	580	75.5	67.8	12.1	20.2	393	70	117	0.02	1.2	7
R1	1.5	34,049	497		61.6	9.9	28.6	306	49	142	0.01	0.8	4

注 H28、H29、H30については、国が公表する地域保健・健康増進事業報告より算出。R1については、県が各市町村に対して独自に調査。

受診率・市町村別 子宮頸がん検診

(国指針に基づく検診について、20～69歳を集計)

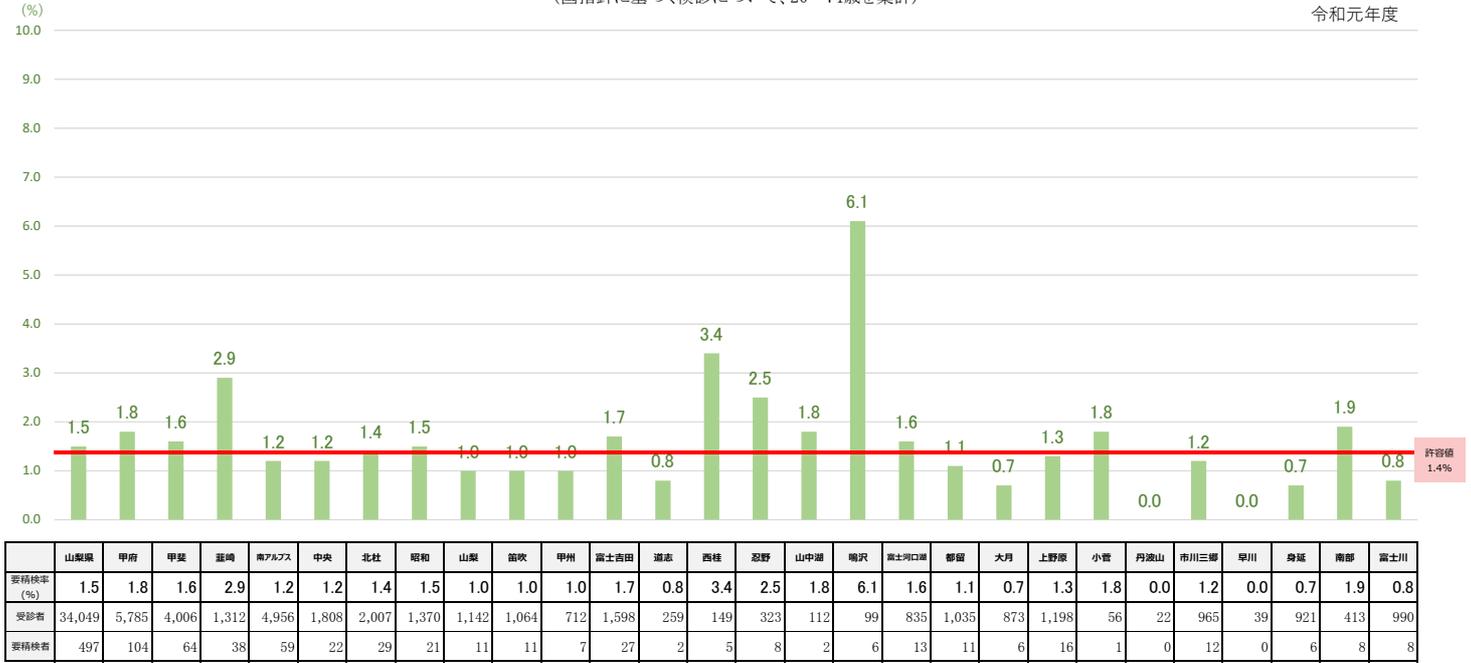


注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

・受診率 = (R1受診者 + R2受診者) ÷ 2年連続受診者

要精検率・市町村別 子宮頸がん検診
(国指針に基づく検診について、20~74歳を集計)

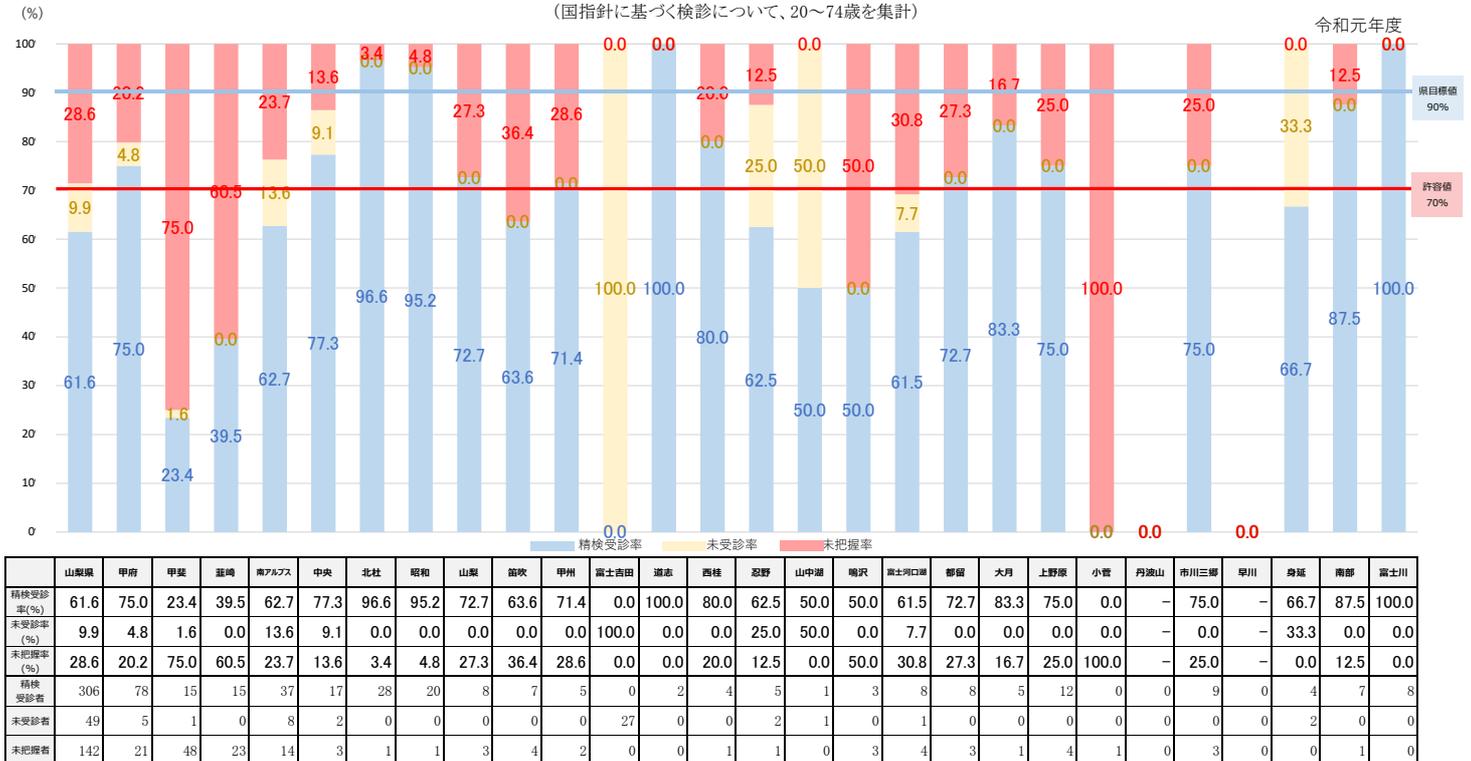
令和元年度



注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

- ・要精検率=要精検者÷対象者
- ・要精検率は、受診者数が少ない場合はバラツキが大きくなるため、評価を行う場合には注意が必要。

精検受診率、未受診率、未把握率・市町村別 子宮頸がん検診
(国指針に基づく検診について、20~74歳を集計)



注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

- ・精検受診率=精検受診者÷要精検者、未受診率=未受診者÷要精検者、未把握率=未把握者÷要精検者
- ・許容値は精検受診率が70%、未受診率が20%、未把握率が10%。県の目標値は精検受診率が90%、未受診率、未把握率が5%。

がん発見率・市町村別 子宮頸がん検診
(国指針に基づく検診について、20～74歳を集計)

令和元年度

	山梨県	甲府	甲斐	葦崎	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	湖志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郷	早川	身延	南都	富士川
がん発見率(%)	0.01	-	-	-	-	-	0.05	0.07	-	-	-	-	-	-	0.31	-	1.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
受診者	34,049	5,785	4,006	1,312	4,956	1,808	2,007	1,370	1,142	1,064	712	1,598	259	149	323	112	99	835	1,035	873	1,198	56	22	965	39	921	413	990
がんであった者	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

- ・がん発見率=がんであった者÷受診者
- ・許容値は0.05%
- ・がん発見率は、精検受診率が低い場合や、受診者数が少ない場合はバラツキが大きくなるため、評価を行う場合には注意が必要。

陽性反応適中度・市町村別 子宮頸がん検診
(国指針に基づく検診について、20～74歳を集計)

令和元年度

	山梨県	甲府	甲斐	葦崎	南アルプス	中央	北杜	昭和	山梨	笛吹	甲州	富士吉田	湖志	西桂	忍野	山中湖	鳴沢	富士河口湖	都留	大月	上野原	小菅	丹波山	市川三郷	早川	身延	南都	富士川
陽性反応適中度	0.8	-	-	-	-	-	3.4	4.8	-	-	-	-	-	-	12.5	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
要精検者	497	104	64	38	59	22	29	21	11	11	7	27	2	5	8	2	6	13	11	6	16	1	0	12	0	6	8	8
がんであったもの	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注・県が各市町村に対して独自に調査。数値は、個別検診及び集団検診の合計値。

- ・陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者
- ・許容値は4.0%
- ・陽性反応適中度は、精検受診率が低い場合や、受診者数が少ない場合はバラツキが大きくなるため、評価を行う場合には注意が必要。

令和3年11月26日(金)厚生労働省健康局がん疾病対策課プレスリリース資料
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seiei_daijinhosyo_00003.html)

がんの早期発見のために受診勧奨を進めます ～2020年は新規にがんと診断された件数が減少～

国立研究開発法人国立がん研究センターより「院内がん登録2020年全国集計」が公表されました。

○報告書のポイント

「院内がん登録全国集計」はがん診療連携拠点病院を含むがん診療病院863施設(新規のがんの約72.5%をカバー)の1,040,379例のデータを集計しています。

10年以上継続して全登録数(新規にがんの診断や治療を受けた例)が増えてきた中で初めて、2020年1月1日～12月31日の1年間の全登録数が、前年の登録数と比べて60,409件の減少(863施設のうち594施設で減少、平均4.6%減少)となりました。

○全登録数の減少に関する当省の考え方

全登録数の減少は、がんの患者数そのものが減少したことに起因するものではなく、以下の理由により、新型コロナウイルス感染症に伴う影響により早期がんを中心にがん発見数が減少したものである可能性が高いと考えています。

- ・ 診断月別にみると、全登録数の減少は緊急事態宣言が発出されていた2020年5月に前年比で22.0%減少とピークになっており、その後は回復傾向が見られたこと。
- ・ 同時期のがん検診の受診者数をみると、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う最初の緊急事態宣言が発出された2020年4月～5月に大幅に減少し、その後回復傾向が見られたものの、年間の総受診者数は前年を1～2割下回っていること。(出典:令和3年8月5日 第33回がん検診のあり方に関する検討会資料4)
- ・ がん・病期別でみると、症状が少なく検診などでの発見率が高い比較的早期のがんにおける登録数の減少率が、自覚症状があつて発見される割合が高い進行がんの登録数の減少率よりも大きい傾向があること。

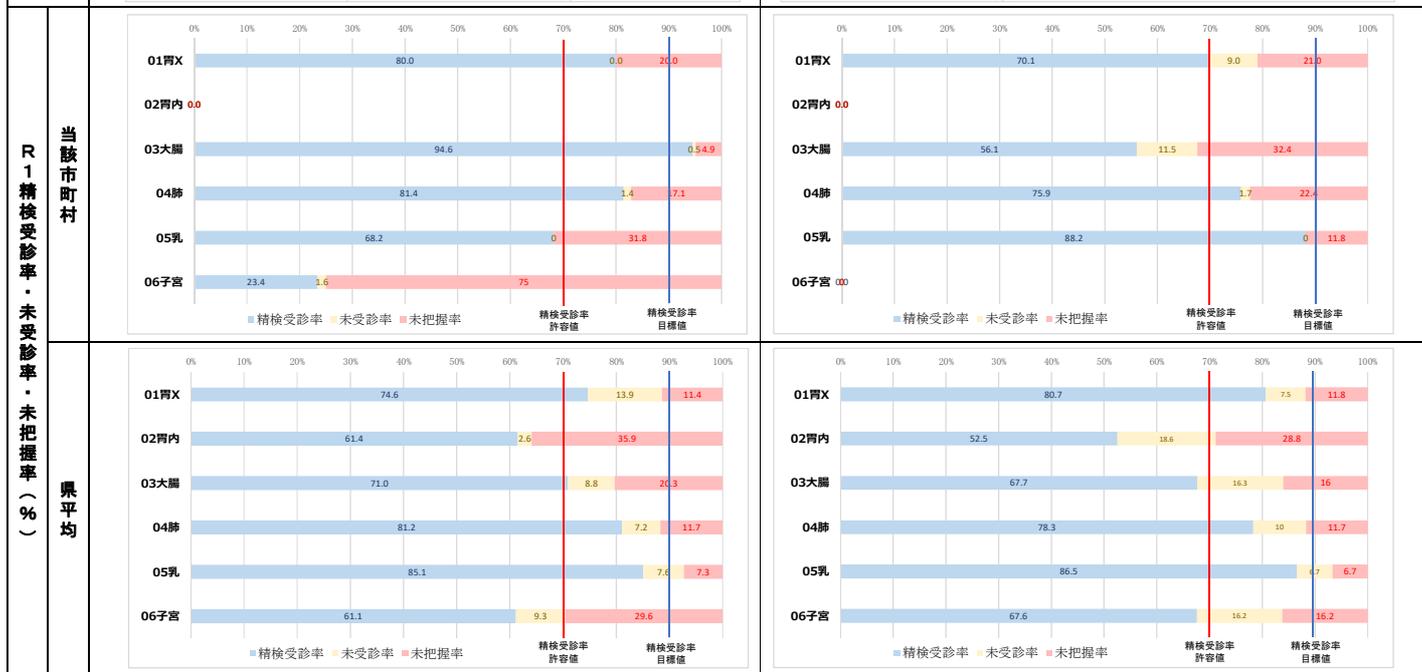
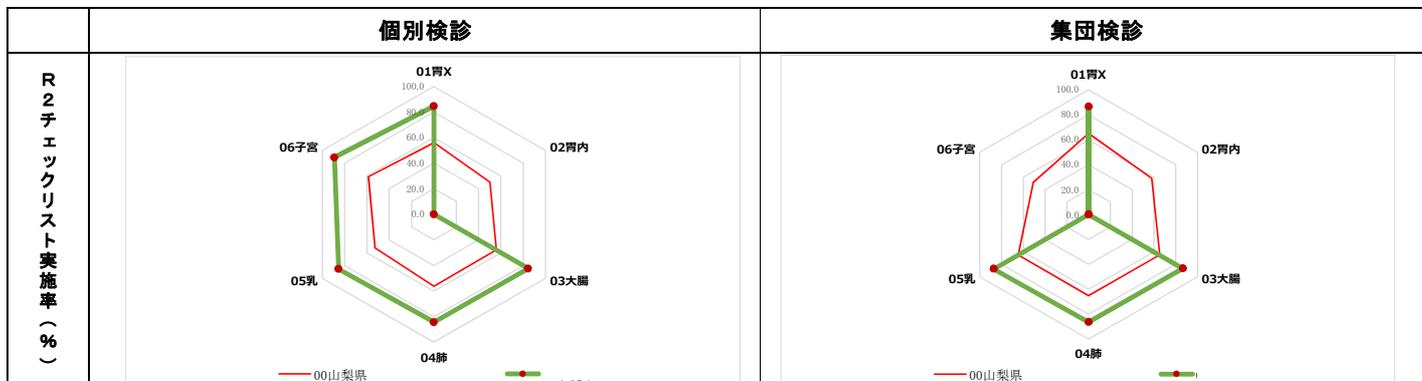
○今回の報告書の結果を受けた当省の対応

がんの早期発見・早期治療のためには、がん検診の受診や医療機関への受診が遅れないようにする事が重要です。

新型コロナウイルス感染症の感染状況による受診行動への影響をできるだけ少なくするため、がん検診などの必要な受診は不要不急の外出にあたらぬことを改めて明確化するなど、引き続き、さらなる受診勧奨に努めてまいります。

における「がん検診の精度管理指標」

R2受診率 (%)		胃 (X+内視鏡)	大腸	肺	乳	子宮
		7.1	14.3	15.4	30.0	19.9
	山梨県	10.4	11.8	12.9	23.6	18.8



R1要精検率・がん発見率・陽性反応適中度(個別・集団合計・%)

	要精検率	がん発見率	陽性反応適中度	受診者	要精検者	精検受診者	がんであった者
01胃X	12.4	0.00	0.0	1,512	187	133	0
	11	0.10	0.9	17,248	1,898	1,519	18
02胃内	0	0.00	0	0	0	0	0
	2.6	0.05	1.9	8,296	212	125	4
03大腸	10.1	0.23	2.3	4,333	438	317	10
	6.3	0.14	2.2	64,985	4,095	2,826	91
04肺	1.6	0.03	1.6	7,768	128	101	2
	1.8	0.03	1.6	76,374	1,351	1,069	22
05乳	2.1	0.11	5.1	4,592	98	82	5
	3.5	0.20	5.8	31,354	1,090	937	63
06子宮	1.6	0.00	0	4,006	64	15	0
	1.5	0.01	0.8	34,049	497	306	4

※上段:当該市町村、下段:県全体。 人口規模の小さい市町村においては、県合計との単純比較が難しいことに注意。

注 各プロセス指標については、県が調査するがん発見・健康増進事業報告を基に算出しているため、確定値ではない。

受診率の対象年齢は次のとおり 胃:50~69歳、大腸・肺・乳:40~69歳、子宮:20~69歳

受診率以外の各プロセス指標の対象年齢は次のとおり 胃:50~74歳、大腸・肺・乳:40~74歳、子宮:20~74歳

におけるプロセス指標の年次推移と対策の検討（胃がんX線検診 個別）

	実施年度				数値目標		値が適正でない場合の検討事項			
	H29	H30	R01	R02	許容値	目標値	予想される原因		検討すべき対策	
受診率		18.4%	16.0%	8.0%	7.1%	-	全国は50%以上 山梨県は60%以上	高値	-	-
	山梨県	13.6%	13.0%	11.4%	10.4%			低値	①対象者未把握 ②受診勧奨の未実施 ③検診の提供体制の未整備	①検診台帳の整備 ②受診勧奨、再勧奨の実施、重要性の周知 ③検診受診者の利便性向上
	全国	8.4%	8.1%	7.8%	-					
要精検率		1.3%	9.6%	10.9%	胃：11.0%以下	-	高値	①受診者の偏り（有病率高） ②偽陰性過多	①有症状者への診療指導 受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上	
	山梨県	4.2%	10.1%	8.8%				低値	①受診者の偏り（有病率低） ②偽陰性過多	①受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上
	全国	8.1%	7.8%	-						
精検受診率		48.4%	73.7%	80.0%	胃：70%以上	全て90%以上	高値	-	-	
	山梨県	63.2%	76.9%	74.6%			低値	①未受診率が高値 ②未把握率が高値	未受診、未把握率を参照	
	全国	75.7%	75.6%	-						
未受診率		6.5%	0.0%	0.0%	胃：20%以下	全て5%以下	高値	①精検受診勧奨が不適切 ②精検の提供体制の未整備	①精検の重要性の周知 ②精検受診者の利便性向上	
	山梨県	14.6%	8.0%	13.9%			低値	-	-	
	全国	7.9%	7.6%	-						
未把握率		45.2%	26.3%	20.0%	胃：10%以下	全て5%以下	高値	①精検受診の有無の未把握 ②精検結果の未把握 (結果未把握の場合は受診にカウントされない)	①精検受診の有無を把握する体制整備 ②精検結果を把握する体制の整備	
	山梨県	22.2%	15.1%	11.4%			低値	-	-	
	全国	16.5%	16.7%	-						
がん発見率		0.08%	0.00%	-	胃：0.11%以上	-	高値	①受診者の偏り（有病率高）	①有症状者への診療指導 受診年齢層の確認	
	山梨県	0.05%	0.04%	0.04%			低値	①受診者の偏り（有病率低） ②偽陰性過多	①受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上	
	全国	0.12%	0.12%	-						
陽性反応適中率		6.5%	0.0%	-	胃：1.0%以上	-	高値	①受診者の偏り（有病率高）	①有症状者への診療指導 受診年齢層の確認	
	山梨県	1.1%	0.4%	0.5%			低値	①受診者の偏り（有病率低） ②偽陰性過多	①受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上	
	全国	1.4%	1.5%	-						

注 許容値を超える場合は赤文字

受診率については、個別と集団を合計した値。また、胃がんについては、X線と内視鏡を合計した値。

受診率については、R01までは、国の公表する地域保健・健康増進事業報告から算出。R02以降については、県が調査するがん発見・健康増進事業報告を基に算出しているため、確定値ではない。

受診率の対象年齢は次のとおり 胃：50～69歳、大腸・肺・乳：40～69歳、子宮：20～69歳

受診率以外の各プロセス指標について、H30までは、国の公表する地域保健・健康増進事業報告から算出。R01以降については、県が調査するがん発見・健康増進事業報告を基に算出しているため、確定値ではない。

受診率以外の各プロセス指標の対象年齢は次のとおり 胃：50～74歳、大腸・肺・乳：40～74歳、子宮：20～74歳

におけるプロセス指標の年次推移と対策の検討（胃がんX線検診 集団）

	実施年度				数値目標		値が適正でない場合の検討事項			
	H29	H30	R01	R02	許容値	目標値	予想される原因		検討すべき対策	
受診率		18.4%	16.0%	8.0%	7.1%	-	全国は50%以上 山梨県は60%以上	高値	-	-
	山梨県	13.6%	13.0%	11.4%	10.4%			低値	①対象者未把握 ②受診勧奨の未実施 ③検診の提供体制の未整備	①検診台帳の整備 ②受診勧奨、再勧奨の実施、重要性の周知 ③検診受診者の利便性向上
	全国	8.4%	8.1%	7.8%	-					
要精検率		8.3%	13.2%	12.6%	胃：11.0%以下	-	高値	①受診者の偏り（有病率高） ②偽陰性過多	①有症状者への診療指導 受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上	
	山梨県	10.5%	12.5%	11.3%				低値	①受診者の偏り（有病率低） ②偽陰性過多	①受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上
	全国	7.3%	7.0%	-						
精検受診率		68.5%	74.1%	70.1%	胃：70%以上	全て90%以上	高値	-	-	
	山梨県	80.4%	84.1%	80.7%			低値	①未受診率が高値 ②未把握率が高値	未受診、未把握率を参照	
	全国	83.9%	84.4%	-						
未受診率		14.5%	10.6%	9.0%	胃：20%以下	全て5%以下	高値	①精検受診勧奨が不適切 ②精検の提供体制の未整備	①精検の重要性の周知 ②精検受診者の利便性向上	
	山梨県	11.3%	7.2%	7.5%			低値	-	-	
	全国	7.0%	6.7%	-						
未把握率		16.9%	15.3%	21.0%	胃：10%以下	全て5%以下	高値	①精検受診の有無の未把握 ②精検結果の未把握 (結果未把握の場合は受診にカウントされない)	①精検受診の有無を把握する体制整備 ②精検結果を把握する体制の整備	
	山梨県	8.2%	8.7%	11.8%			低値	-	-	
	全国	9.2%	8.9%	-						
がん発見率		0.13%	0.14%	-	胃：0.11%以上	-	高値	①受診者の偏り（有病率高）	①有症状者への診療指導 受診年齢層の確認	
	山梨県	0.08%	0.18%	0.11%			低値	①受診者の偏り（有病率低） ②偽陰性過多	①受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上	
	全国	0.12%	0.12%	-						
陽性反応適中率		1.6%	1.1%	-	胃：1.0%以上	-	高値	①受診者の偏り（有病率高）	①有症状者への診療指導 受診年齢層の確認	
	山梨県	0.8%	1.5%	1.0%			低値	①受診者の偏り（有病率低） ②偽陰性過多	①受診年齢層の確認 ②検診機関の精度向上	
	全国	1.7%	1.8%	-						

注 許容値を超える場合は赤文字

受診率については、個別と集団を合計した値。また、胃がんについては、X線と内視鏡を合計した値。

受診率については、R01までは、国の公表する地域保健・健康増進事業報告から算出。R02以降については、県が調査するがん発見・健康増進事業報告を基に算出しているため、確定値ではない。

受診率の対象年齢は次のとおり 胃：50～69歳、大腸・肺・乳：40～69歳、子宮：20～69歳

受診率以外の各プロセス指標について、H30までは、国の公表する地域保健・健康増進事業報告から算出。R01以降については、県が調査するがん発見・健康増進事業報告を基に算出しているため、確定値ではない。

受診率以外の各プロセス指標の対象年齢は次のとおり 胃：50～74歳、大腸・肺・乳：40～74歳、子宮：20～74歳

山梨県のがん統計

(がん登録)

「生活習慣病管理指導協議会 乳・子宮がん部会」

令和4年2月21日(月)

山梨県福祉保健部健康増進課 がん対策推進担当

山梨県のがん統計

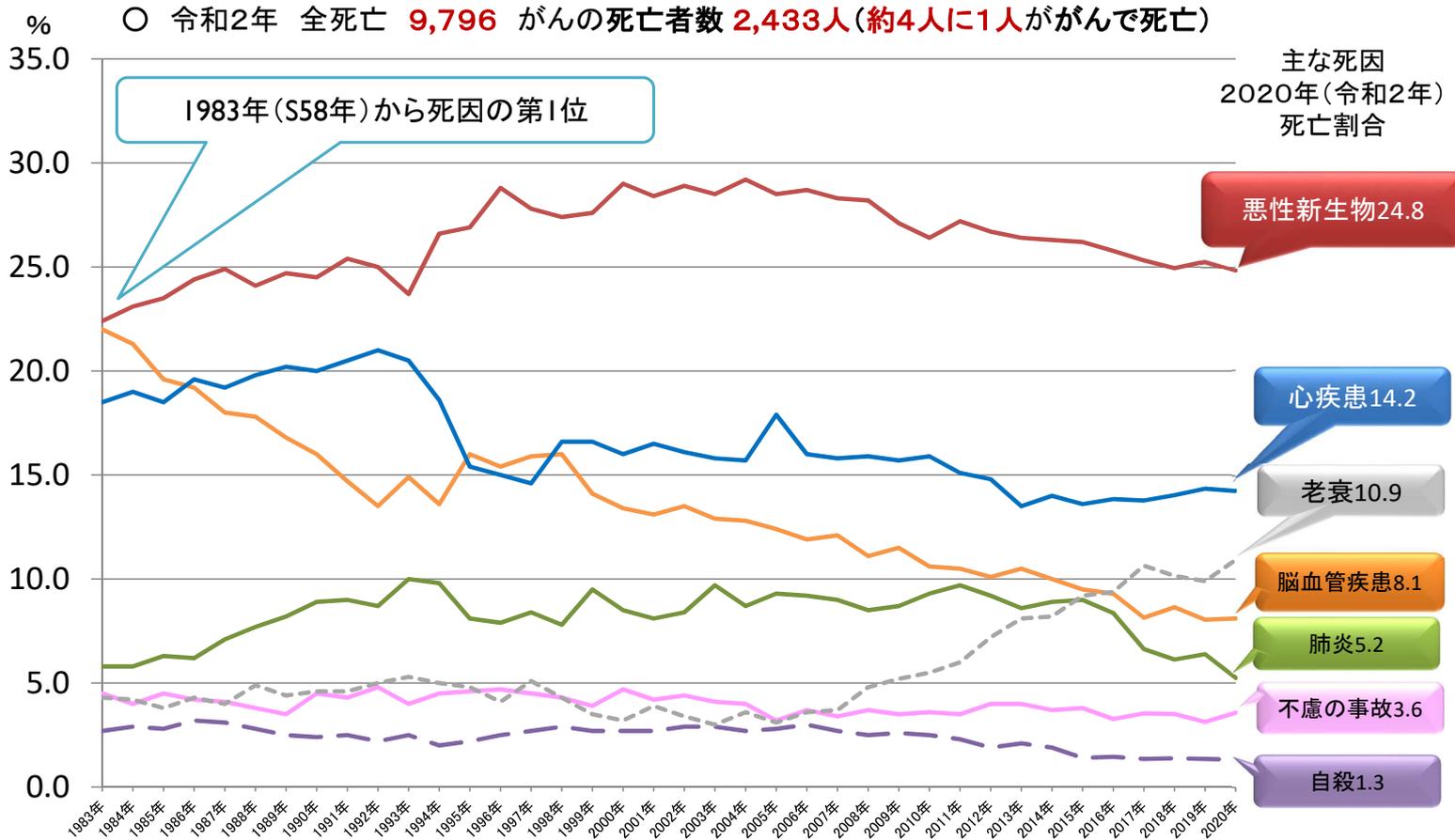
◆ がんの死亡

◆ がんの罹患



◆ 乳・子宮頸がんについて

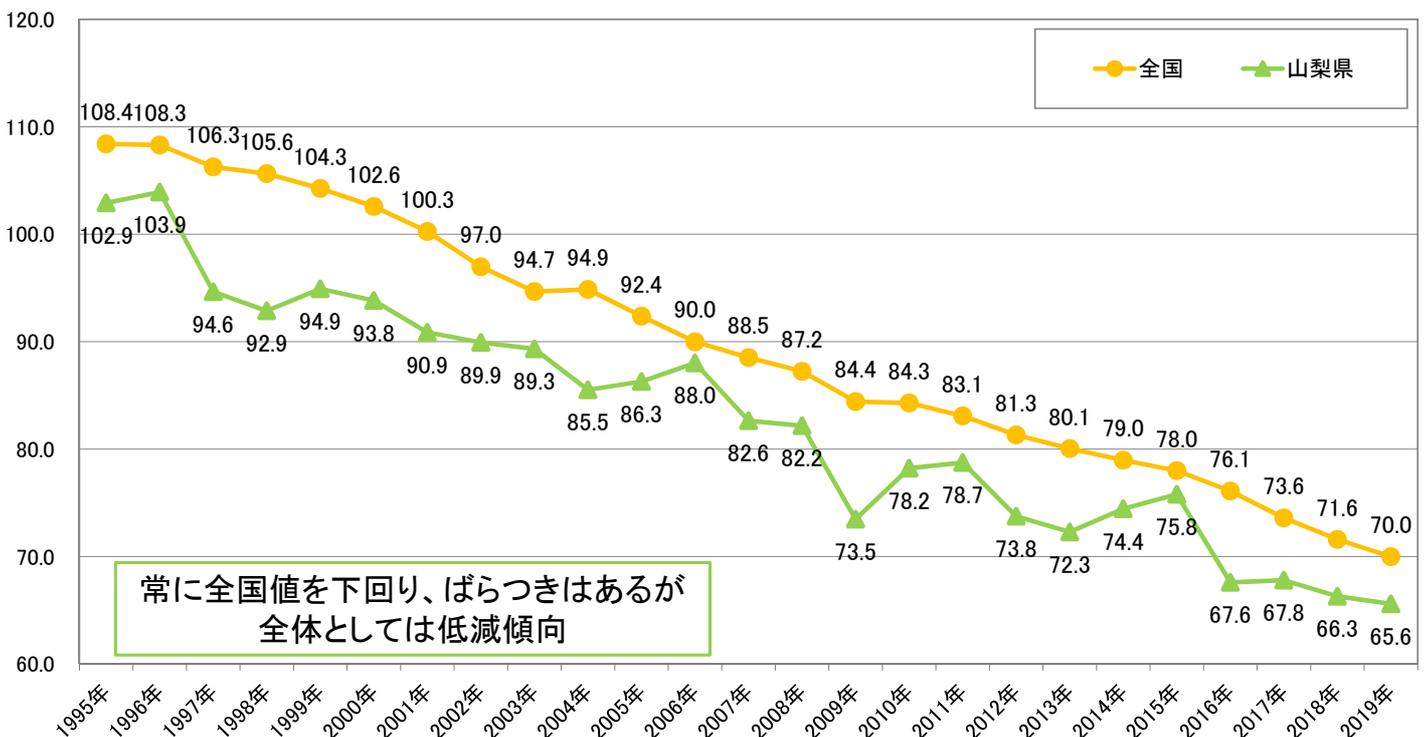
山梨県の死亡割合の推移(主な死因別)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較(人口10万対)

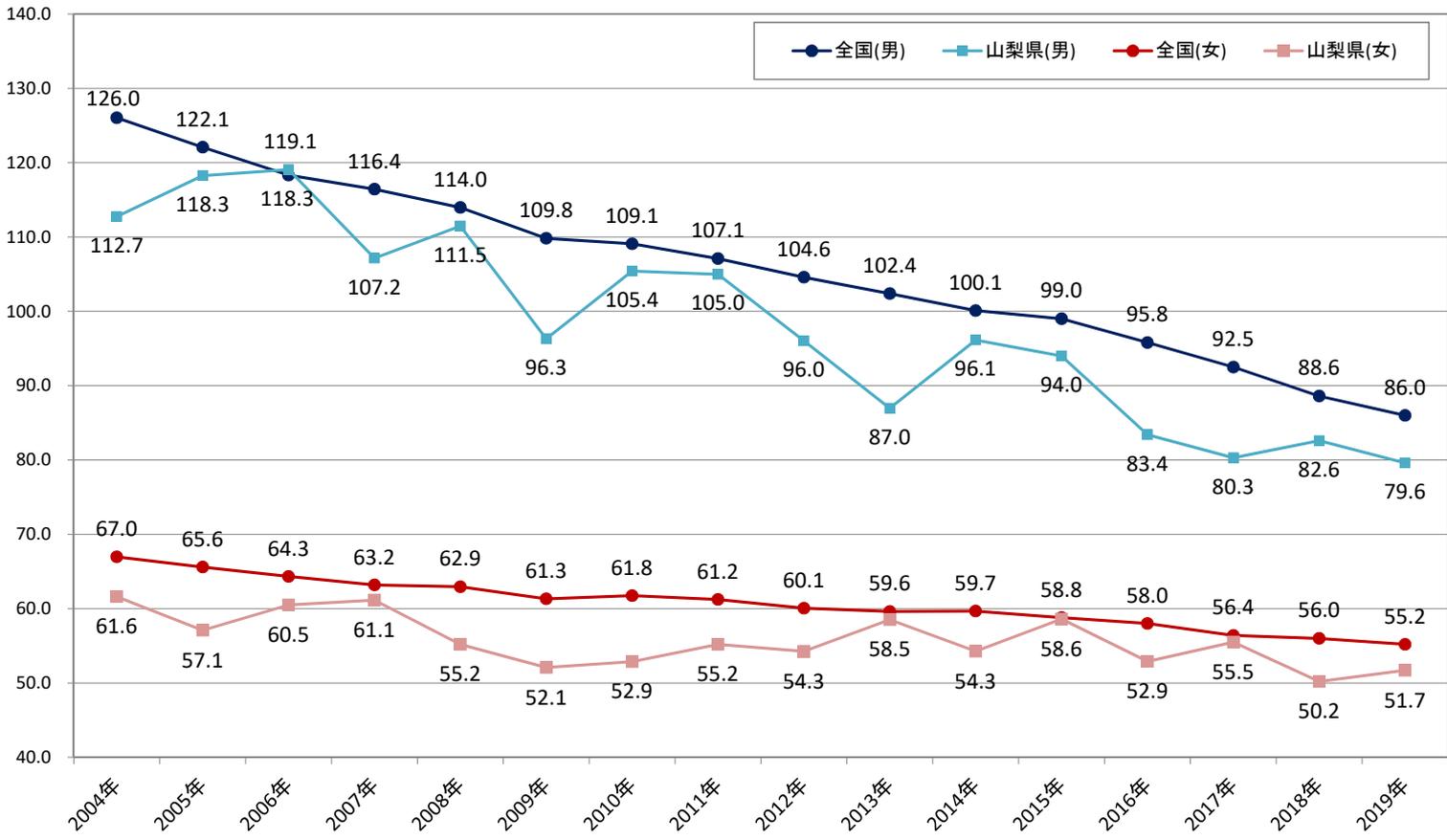
出典：国立がん研究センターがん情報サービス



高齢化の影響を取り除いたがんによる死亡割合を示す指標である「75歳未満年齢調整死亡率」は、がん対策全体の指標となっており、全国は毎年着実に低下している。山梨県は、これを常に下回っており、がんにより亡くなる可能性が低い県と言える。人口規模が小さいことから、値にばらつきがあるものの全体としては低減傾向である。

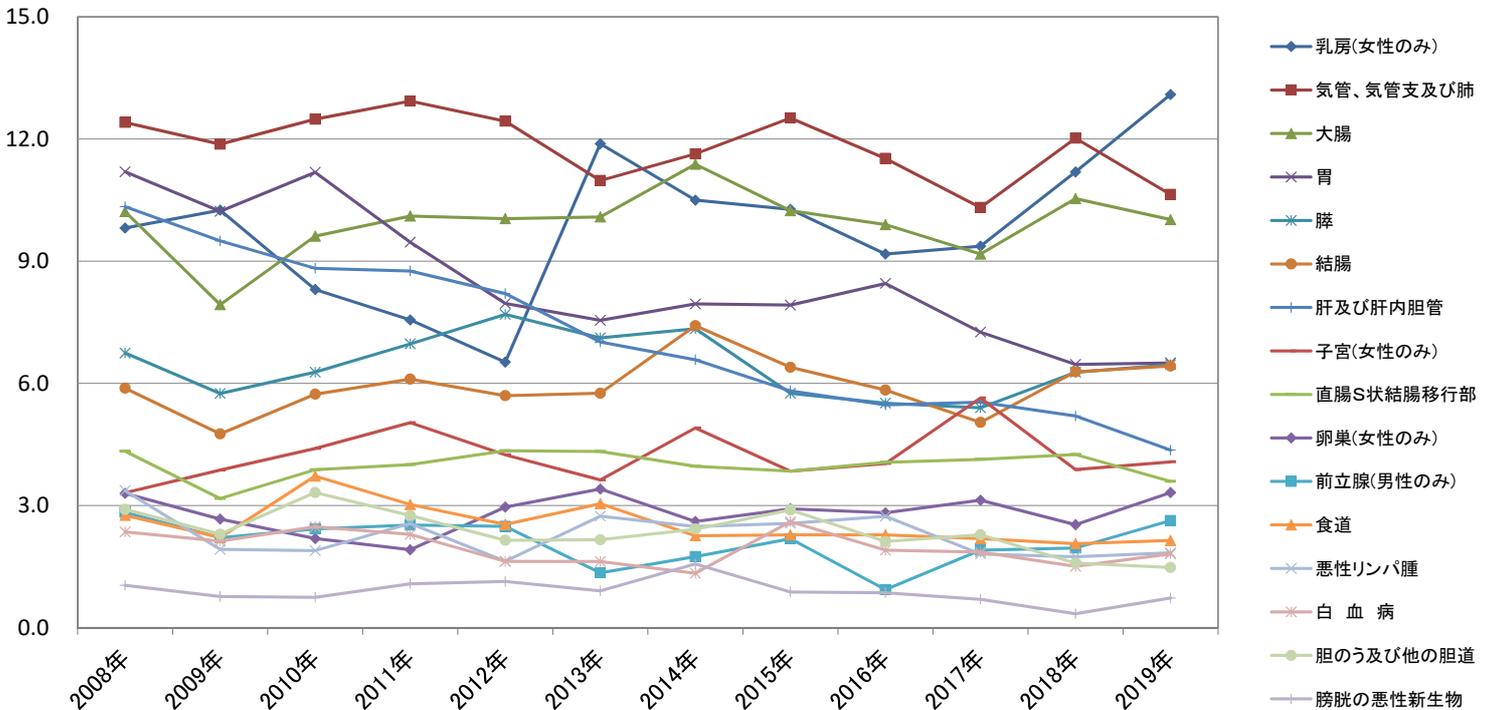
(男女別)75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較(人口10万対)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス



山梨県健康増進課がん対策推進担当

部位別75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)



出典：人口動態統計・山梨県がん罹患統計

	1位	2位	3位	4位	5位
全体・男性	肺(↓)	大腸(→)	胃(↓)	膵(→)	肝(→)
女性	乳(↑)	大腸(→)	膵(↑)	肺(↓)	胃(↓)

189 * 順位は、2019年 ()内は、1995～2019年までの推移

山梨県のがん統計

◆ がんの死亡

◆ がんの罹患



◆ 乳・子宮頸がんについて

がんの罹患 がん登録とは

• がん登録の目的

がん登録によって得られた情報を利活用し、がん対策を評価するとともに、県民等に適切な情報を提供する。

• 地域がん登録 2008(平成20年)～

• 全国がん登録 2016(平成28年)～

「がん登録等の推進に関する法律」

がんと診断したら届出: 病院は義務化

診療所は申請・指定

2008～2018年がん罹患数(全体)の推移

(上皮内がんを除く)

(件)	地域がん登録								全国がん登録		
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
全体	5,280	5,402	5,507	5,435	5,380	5,116	5,281	5,528	6,593	6,258	6,270
男性	3,075	3,158	3,242	3,168	3,161	2,977	3,052	3,210	3,819	3,701	3,693
女性	2,205	2,244	2,265	2,267	2,219	2,138	2,229	2,318	2,773	2,557	2,577

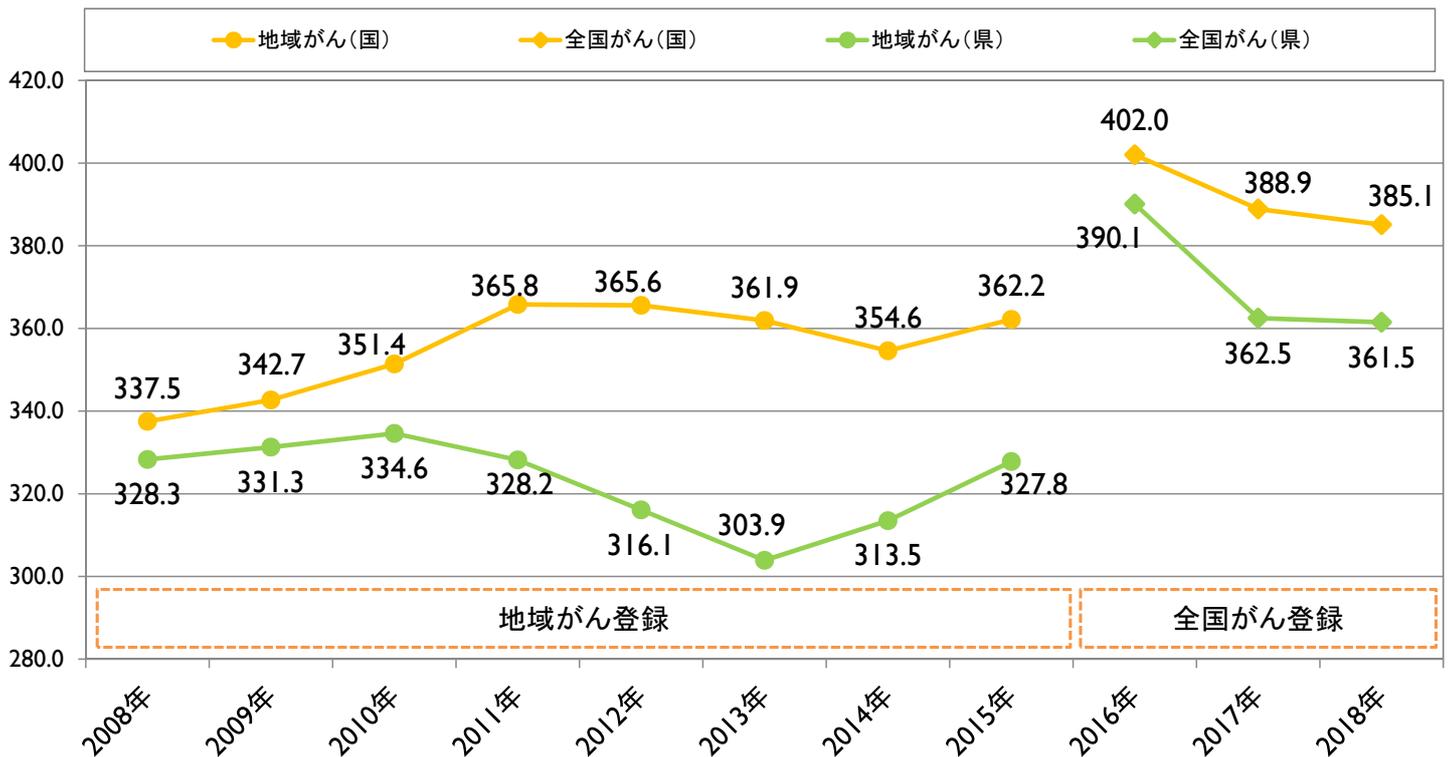
出典：国立がん研究センターがん情報サービス
山梨県がん登録罹患集計

全国がん登録となり1.2倍(20%増)
(内訳：県外15% 県内5%の増加)

山梨県健康増進課がん対策推進担当

全部位年齢調整罹患率の全国との比較(上皮内がんを除く) (人口10万対)

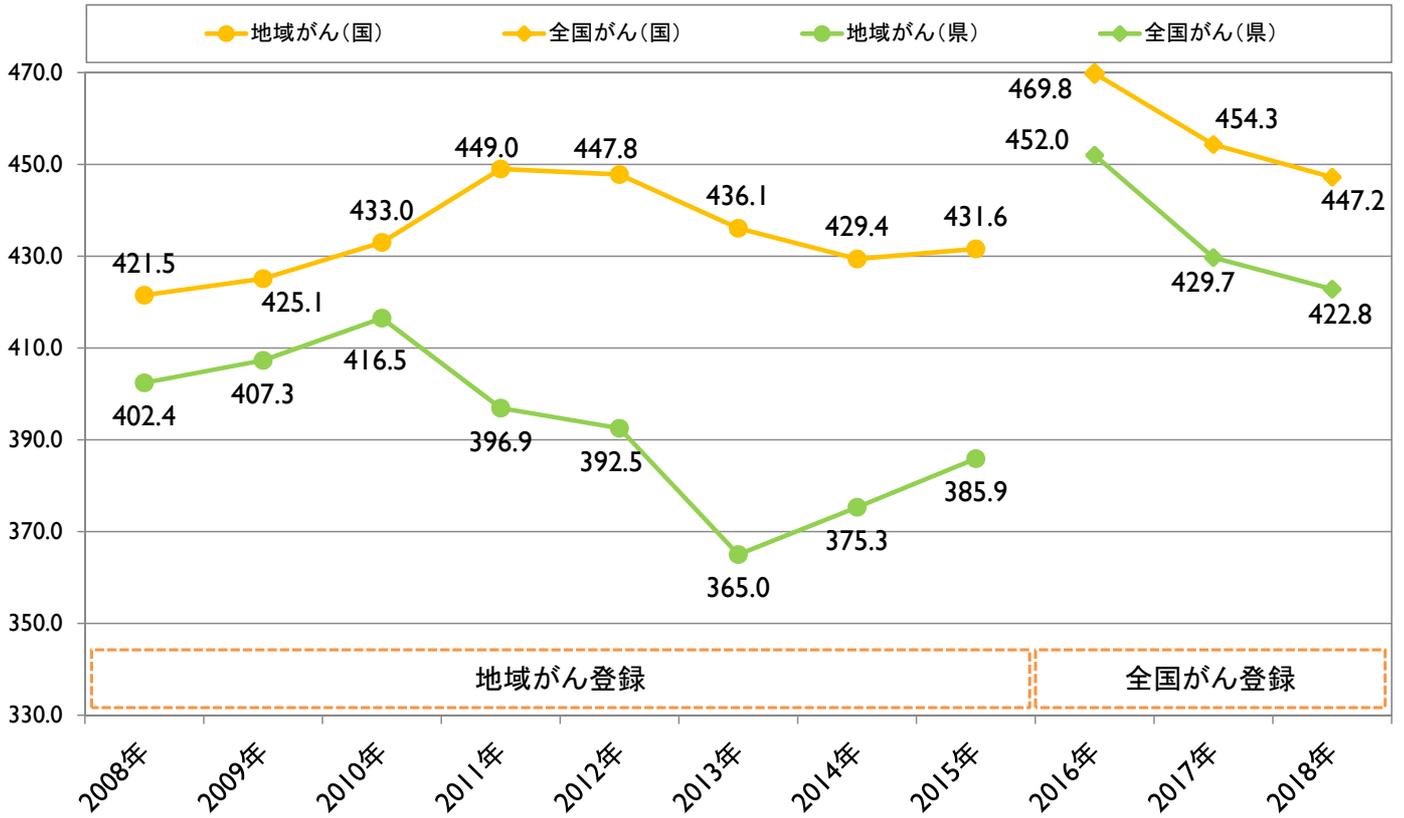
出典：国立がん研究センターがん情報サービス



高齢化の影響を取り除いたがん罹る人の割合(年齢調整罹患率)は、がんの予防についての総合的な指標となる。山梨県においては、統計を取り始めた2008年以降、各年において全国を下回っている。

(男性)全部位年齢調整罹患率の全国との比較(上皮内がんを除く) (人口10万対)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

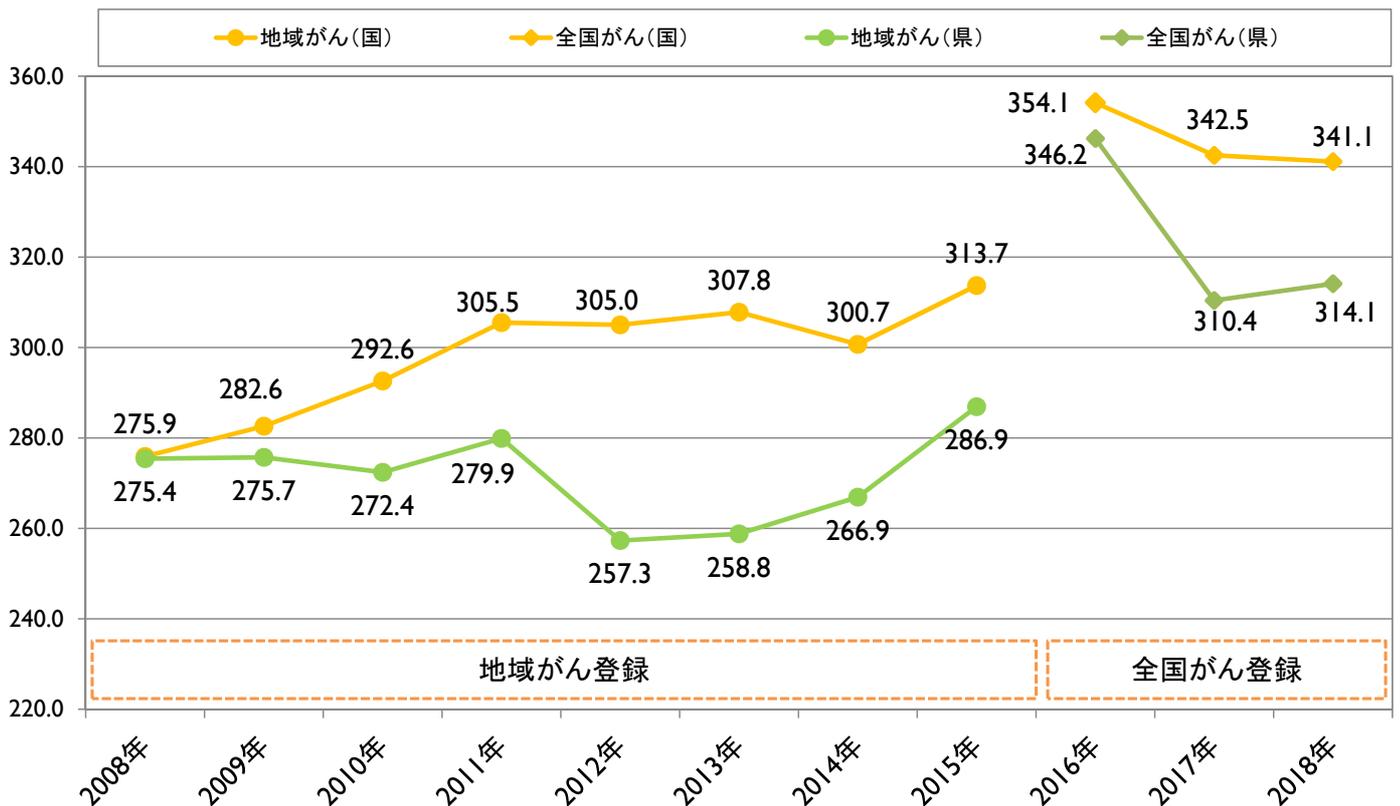


山梨県健康増進課がん対策推進担当

11

(女性)全部位年齢調整罹患率の全国との比較(上皮内がんを除く) (人口10万対)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

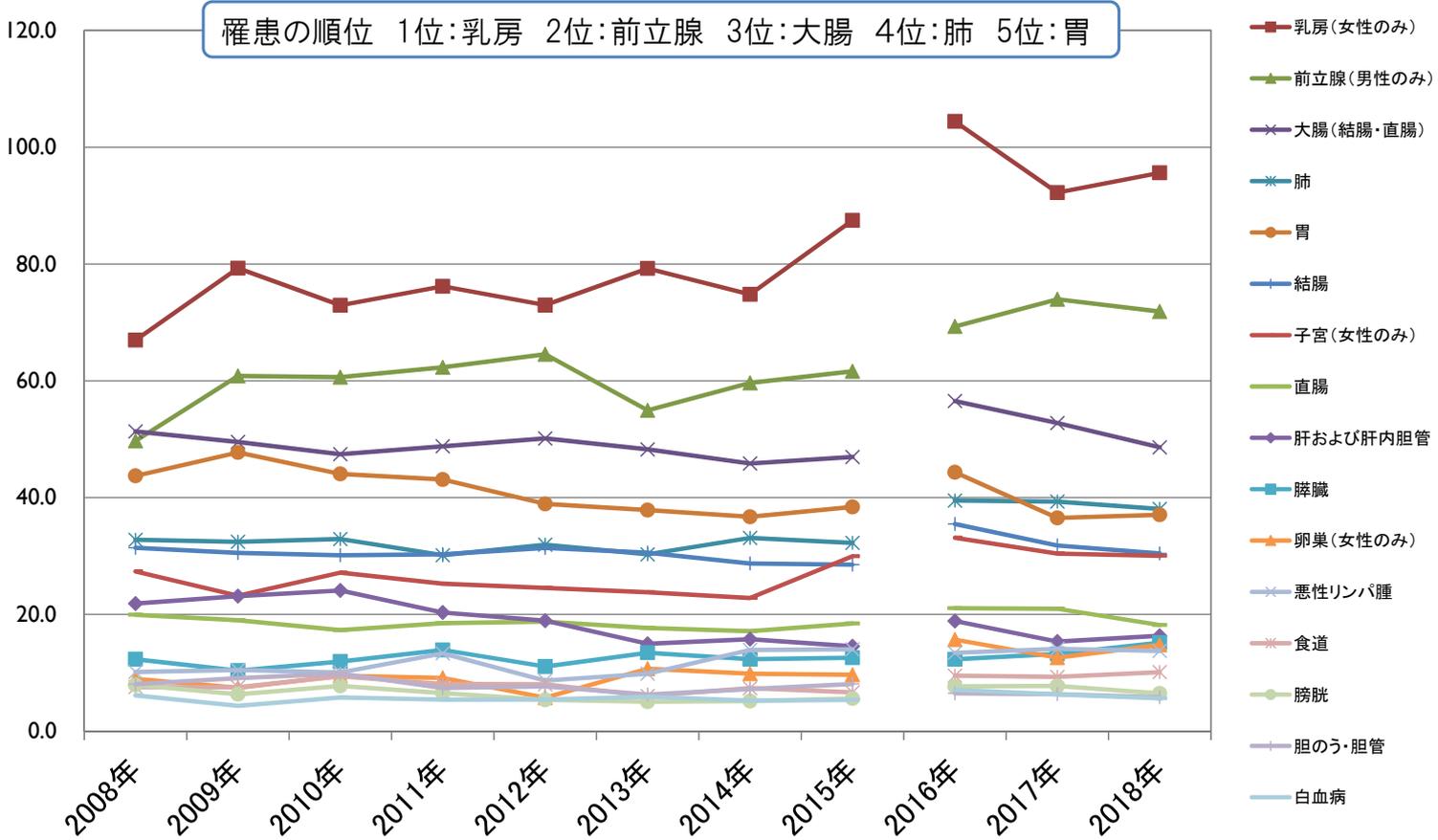


山梨県健康増進課がん対策推進担当

12

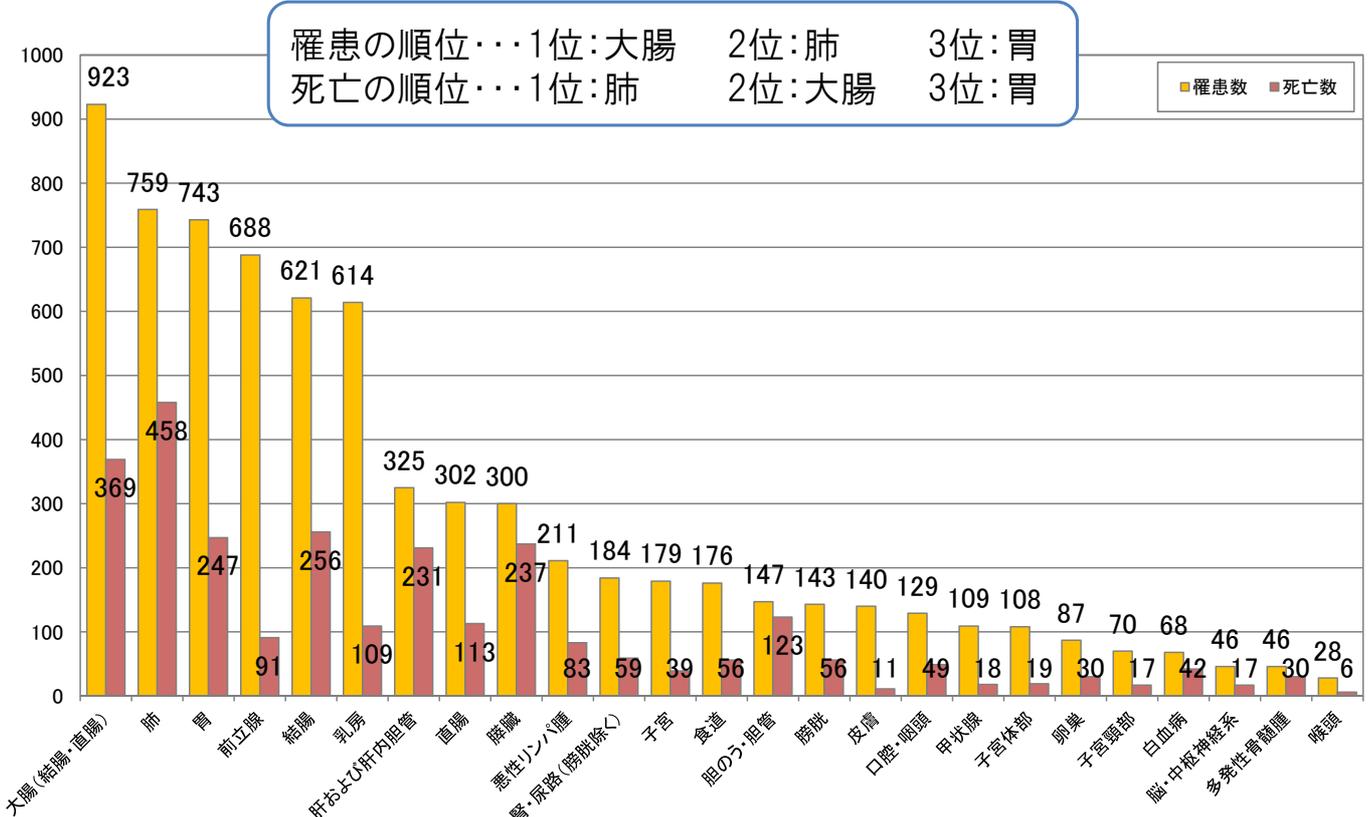
部位別年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く)

出典: 国立がん研究センターがん情報サービス



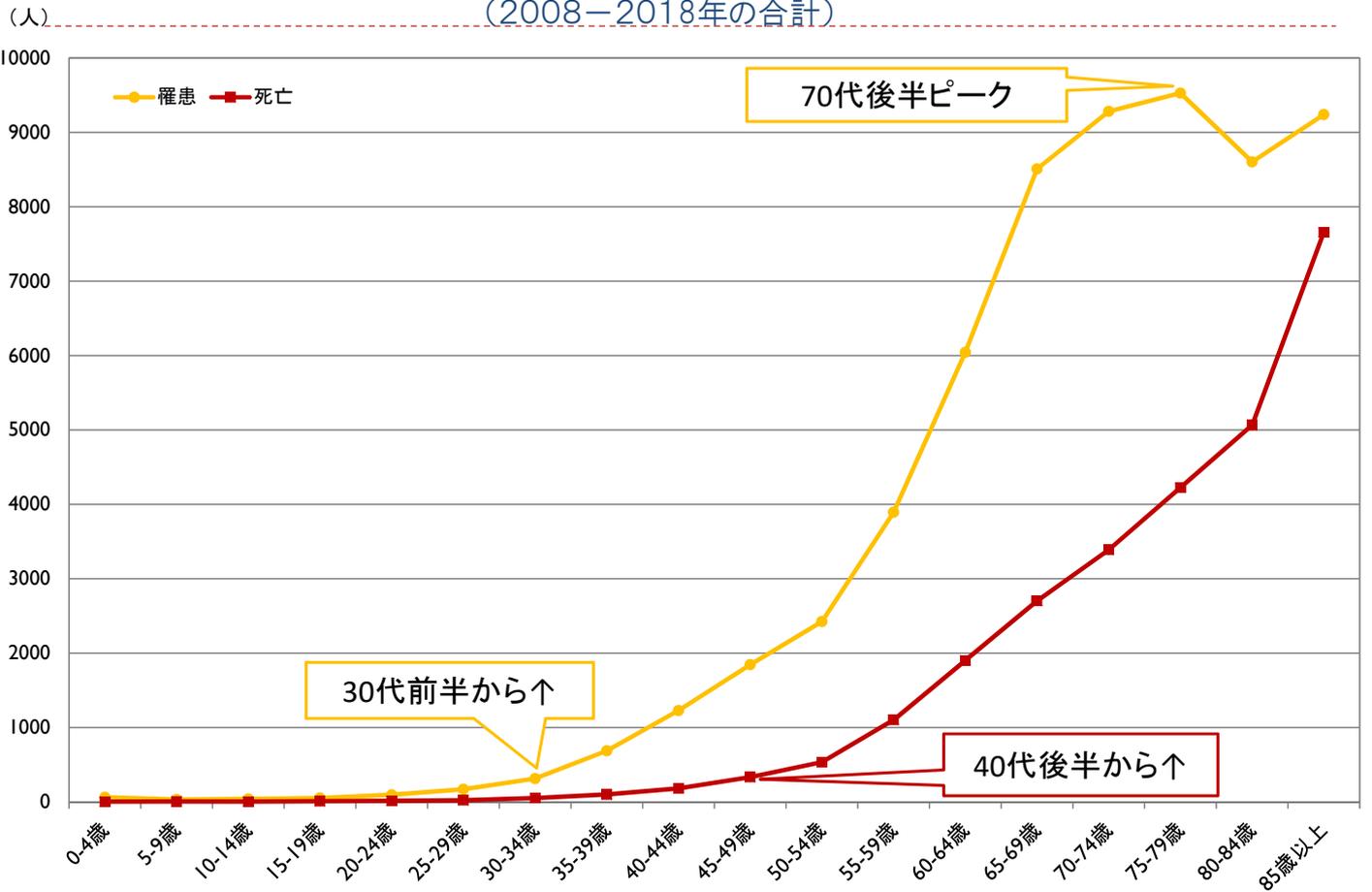
がんの部位別の年齢調整罹患率は、女性のみや男性のみを母数にしている乳がんや前立腺がんで高い。

山梨県の罹患数と死亡数の比較(2018年)



がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、胃がんが続いている。がんにより亡くなった人の数(死亡数)については、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順になっている。乳がんや前立腺がんのように罹患数に比べて死亡数が少なく、死亡原因になりにくいがんがある一方で、肝がんやすい臓がん、胆のうがんなど、罹患数と死亡数の差が小さいがんもあるということもわかる。

全部位年齢階級別罹患数と死亡数の比較



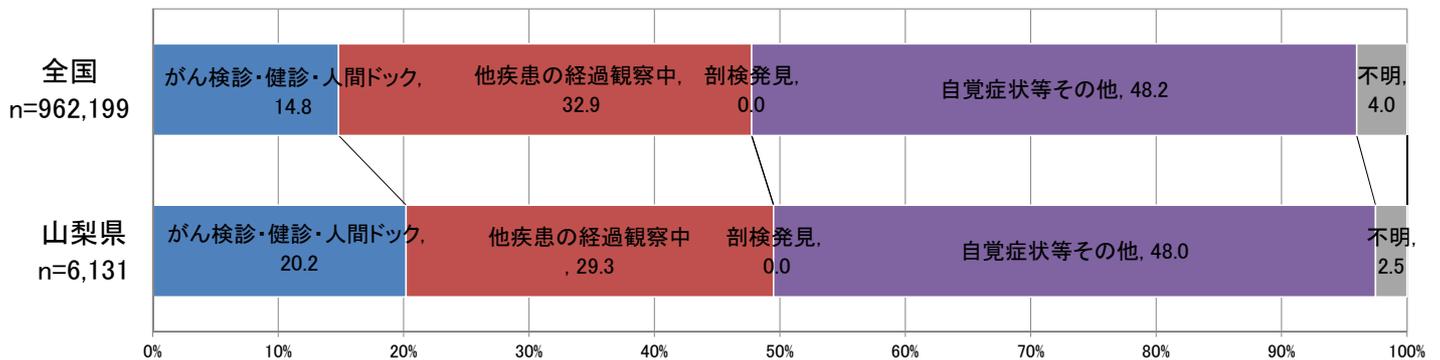
山梨県健康増進課がん対策推進担当

出典：人口動態統計・山梨県がん罹患統計

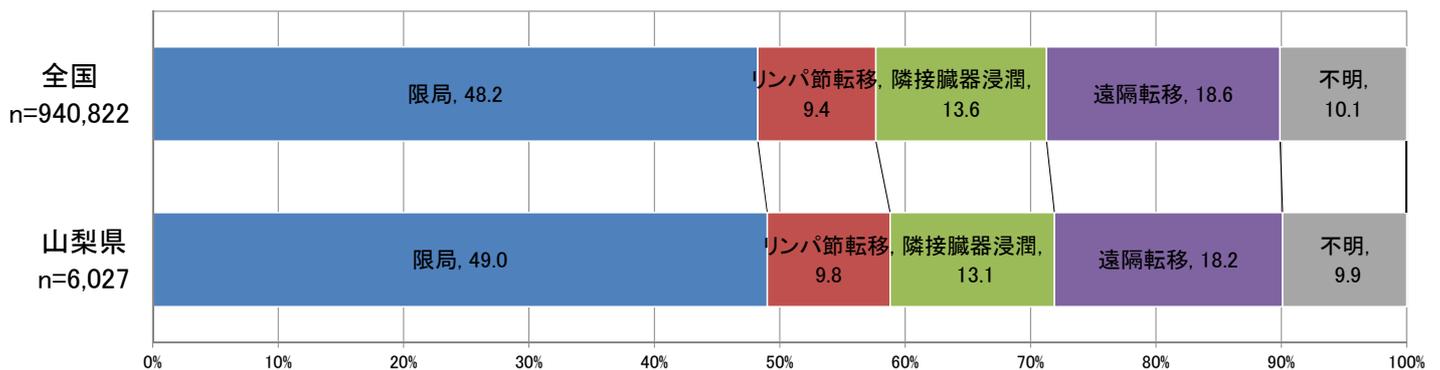
全部位発見経緯と進行度の全国との比較 (2018年)

発見経緯

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
山梨県がん登録罹患集計



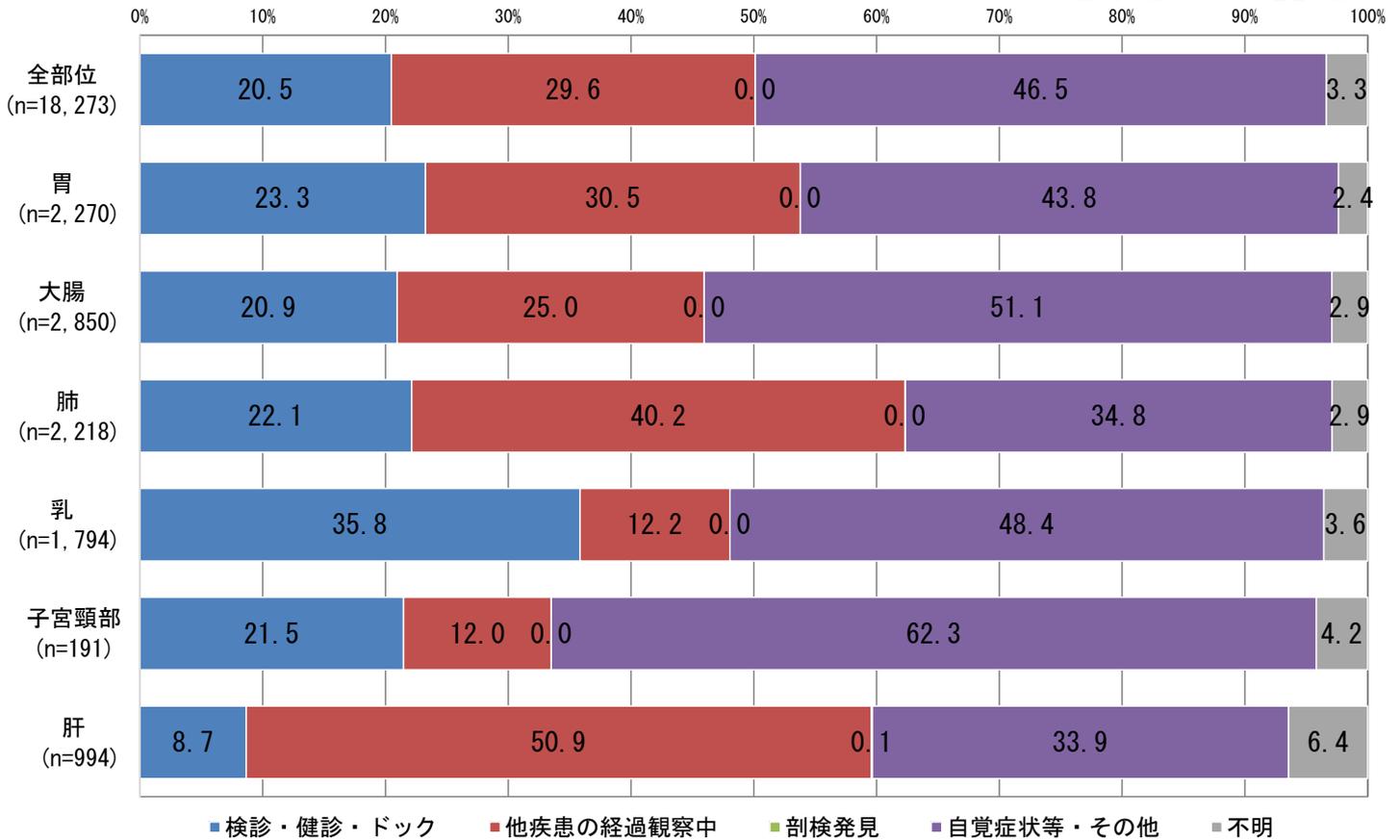
進行度



山梨県健康増進課がん対策推進担当

部位別の発見経緯 (2016~2018年)

出典：山梨県がん罹患集計

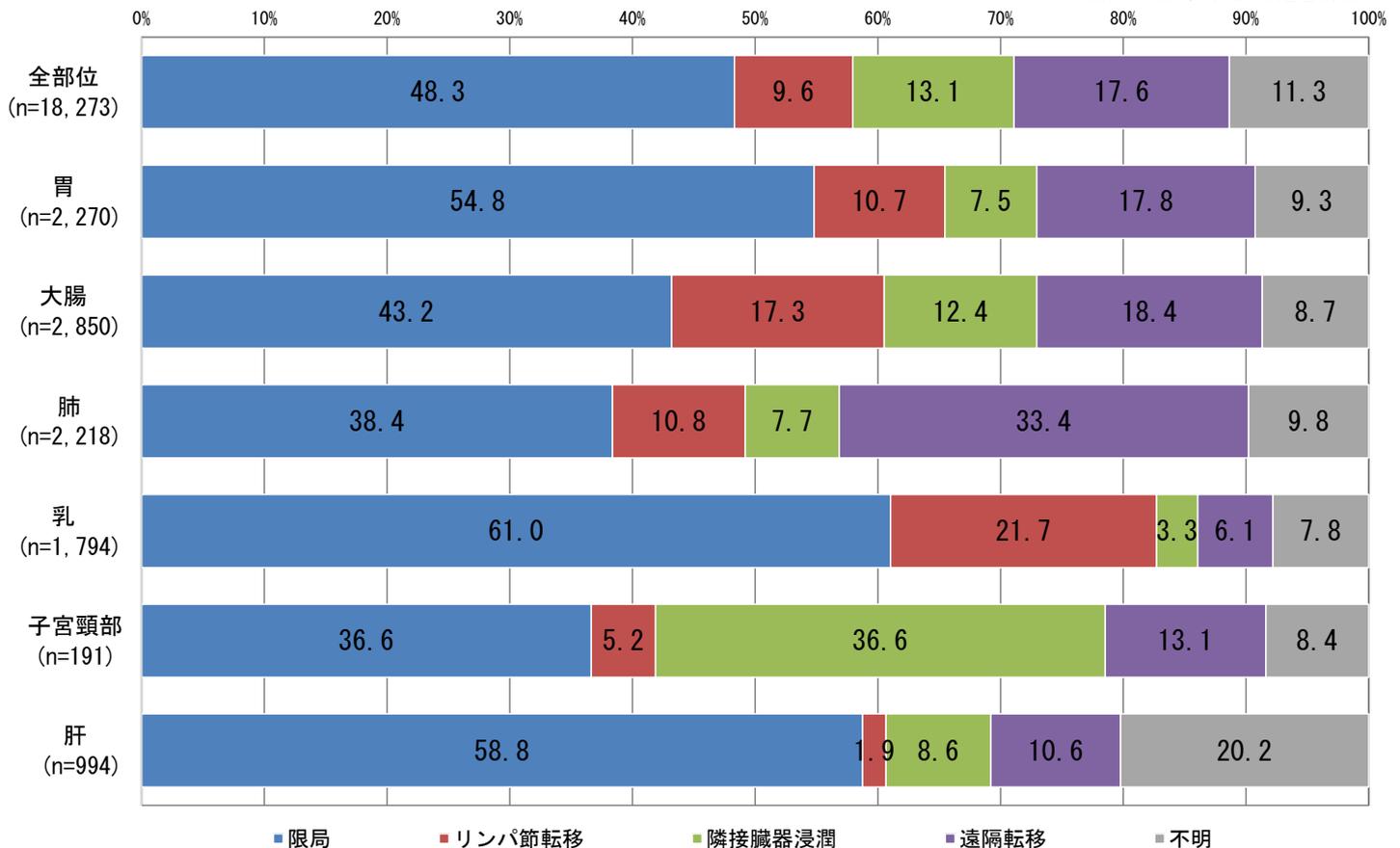


山梨県健康増進課がん対策推進担当

17

部位別の進行度 (2016~2018年)

出典：山梨県がん罹患集計

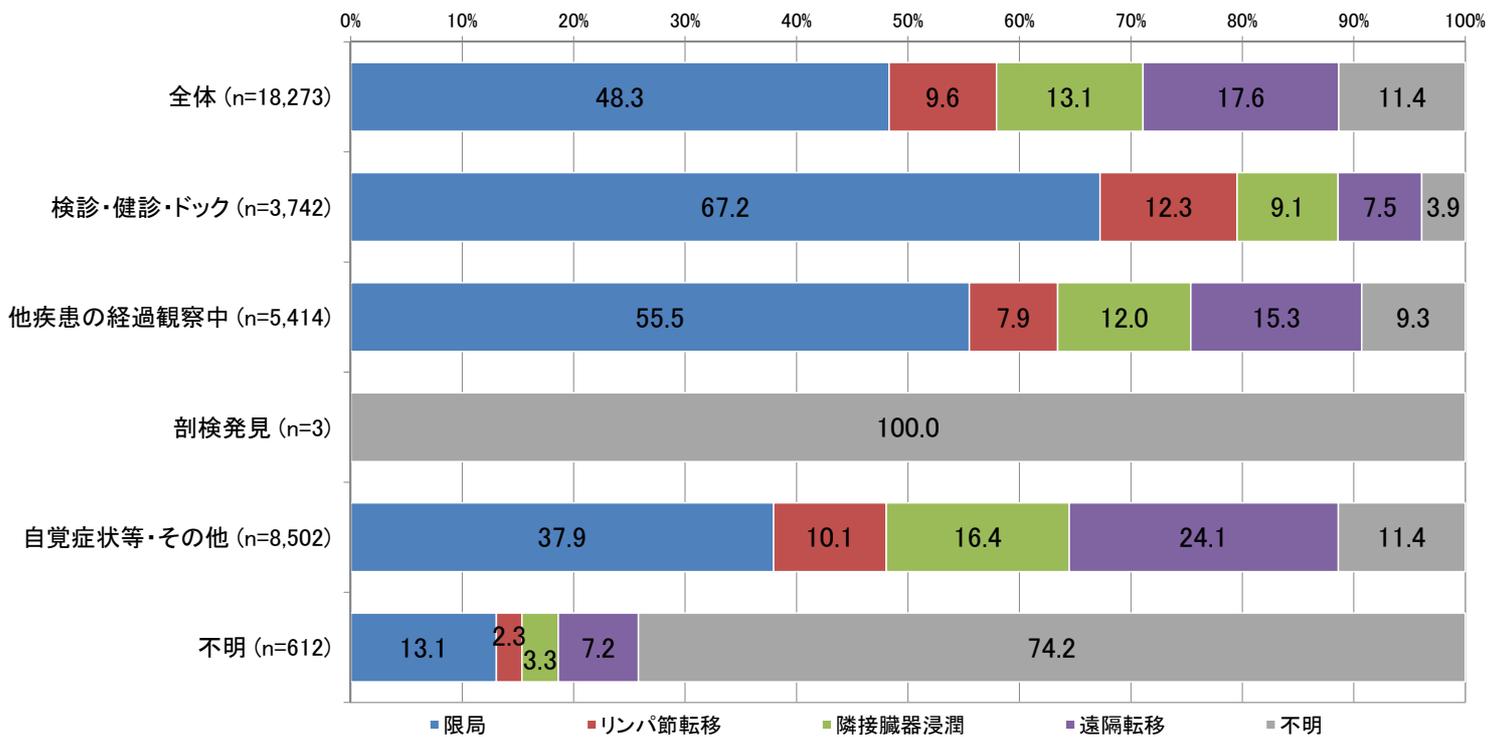


山梨県健康増進課がん対策推進担当

18

全部位発見経緯別の進行度(2016年～2018年全部位)(%)

出典：山梨県がん罹患集計

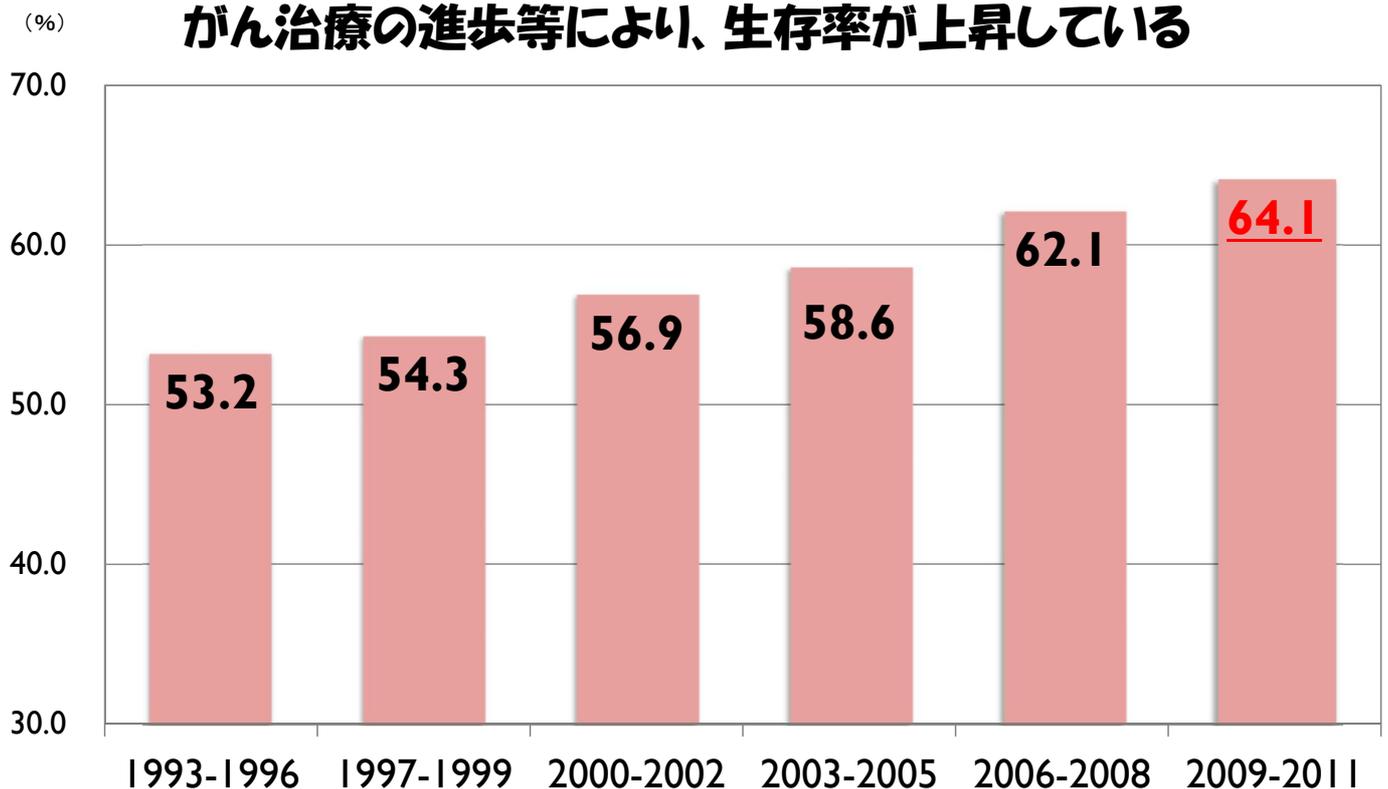


発見経緯別の進行度は、部位により異なる傾向を持っているが、全部位を集計した結果においても、検診・健診・ドックは限局で発見される割合が最も高く、早期発見に有効であると考えられる。

山梨県健康増進課がん対策推進担当

(国)5年相対生存率(全部位)

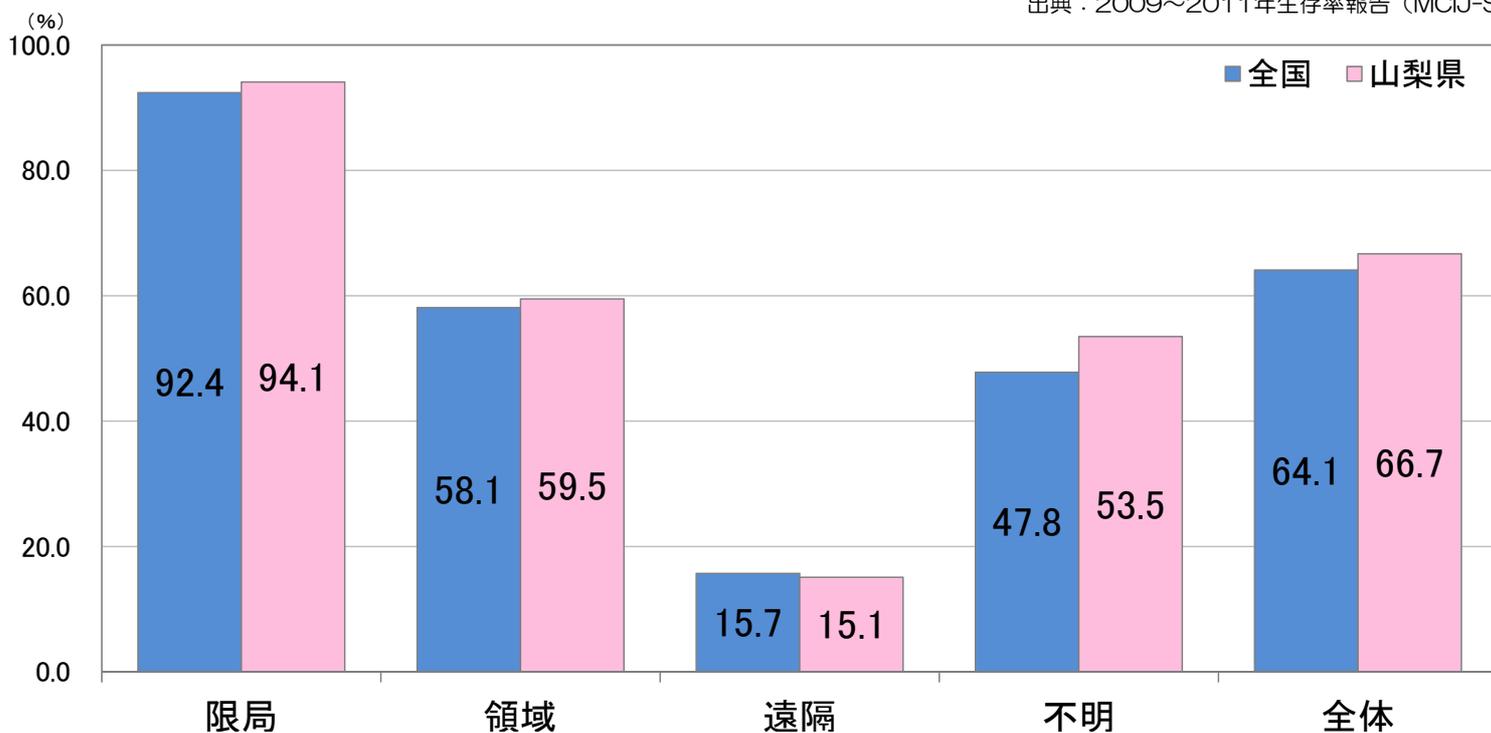
がん治療の進歩等により、生存率が上昇している



独立行政法人国立がん研究センターがん情報サービス(地域がん登録に基づく)

全部位進行度別5年相対生存率の全国との比較

出典：2009～2011年生存率報告（MCIJ-S）

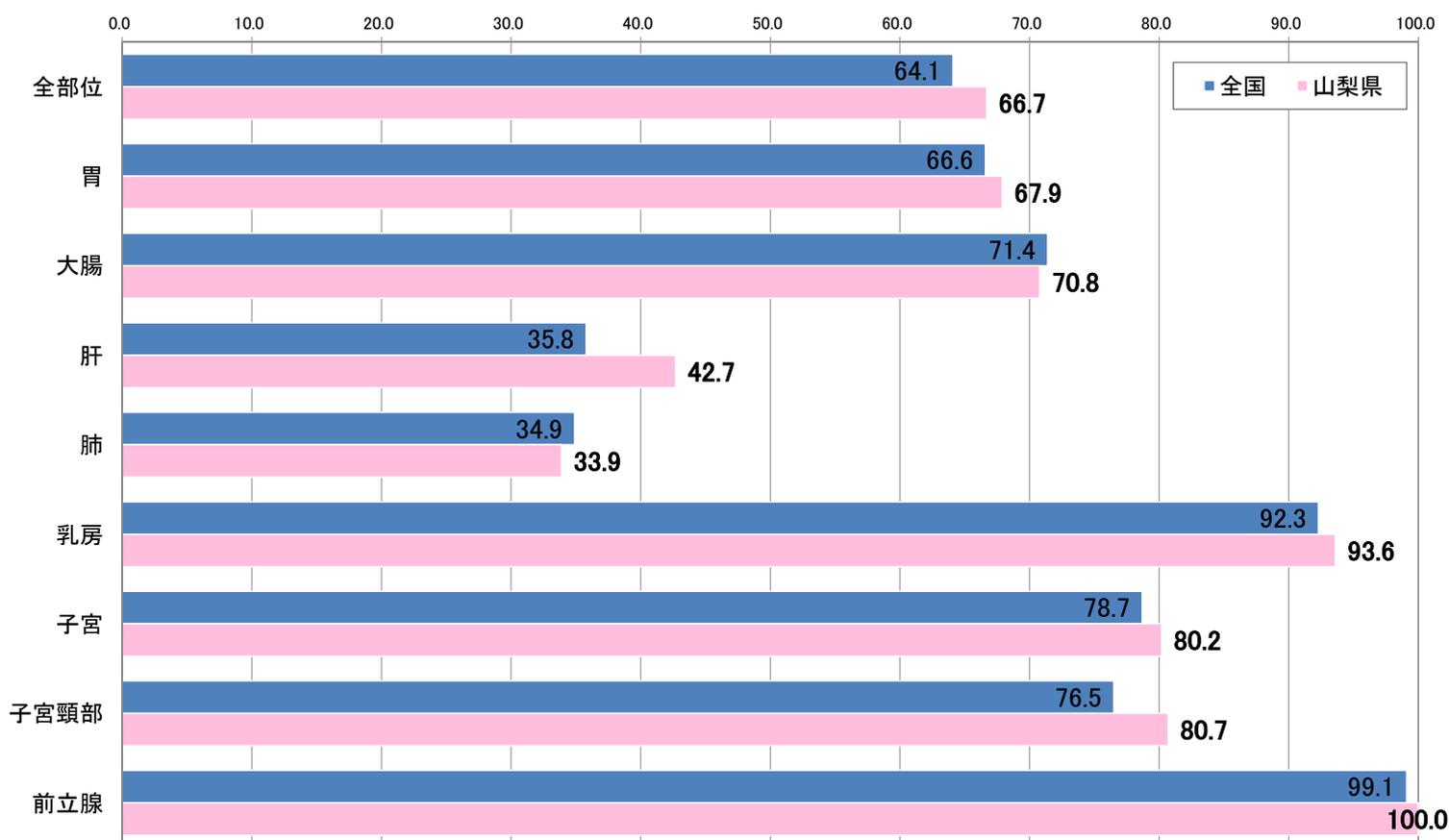


発見時の進行度別に5年相対生存率を見ると、限局で90%以上であるのに対し、領域で60%、遠隔で15%程度に低下しており、早期発見・早期治療の重要性がこのデータにも現れている。

山梨県健康増進課がん対策推進担当

領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

部位別5年相対生存率の全国との比較(%)



出典：2009～2011年生存率報告（MCIJ-S）

がん登録情報のデータ精度の全国との比較

出典：全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ） 山梨県がん罹患集計

	DCN		DCO		IM比	
	全国	山梨県	全国	山梨県	全国	山梨県
MCIJ掲載基準	30%未満		25%未満		1.5以上	
2008年	20.2	21.8	13.6	11.9	2.13	2.14
2009年	20.1	19.6	13.4	9.5	2.20	2.32
2010年	18.0	19.4	12.0	10.2	2.23	2.24
MCIJ(基準A) *推計値採用基準	20%未満		10%未満		2.0以上	
2011年	11.9	17.4	5.3	7.7	2.31	2.13
2012年	13.1	15.9	5.6	7.4	2.31	2.11
2013年	8.3	5.9	5.0	4.4	2.30	2.05
2014年	7.8	10.9	4.7	6.1	2.33	2.05
2015年	7.3	9.9	4.4	4.8	2.40	2.19
	DCI (20%未満)		DCO (10%未満)		MI比 (0.4以下)	
2016年	4.5	5.9	3.2	3.2	0.37	0.37
2017年	4.9	4.4	2.1	1.9	0.39	0.35
2018年	3.1	4.6	1.9	2.2	0.38	0.39

- ▽ MCIJ：全国がん罹患モニタリング集計（上皮内がんを除く）
- ▽ DCN：death certificate notifications 死亡診断書で初めて把握されたもの
- ▽ DCO：death certificate only 死亡票のみで登録されているもの
- ▽ DCI：death certificate initiated 遡り調査で届出されたがん+DCO
- ▽ IM比：罹患数と死亡数の比(罹患数/死亡数)
- ▽ MI比：死亡数と罹患数の比(死亡数/罹患数)
- ※全国がん登録システムの集計仕様による値を表示

がん登録は、がんに罹ったことを診断したときに医療機関が登録を行う仕組みである。死亡時に初めて把握される割合(DCN)や死亡時の情報しかない割合(DCO)が低い方が精度が高く、山梨県は2011年に診断された症例以降は高い精度を保っている。

23

山梨県のがん統計

◆ がんの死亡

◆ がんの罹患

◆ 乳・子宮頸がんについて

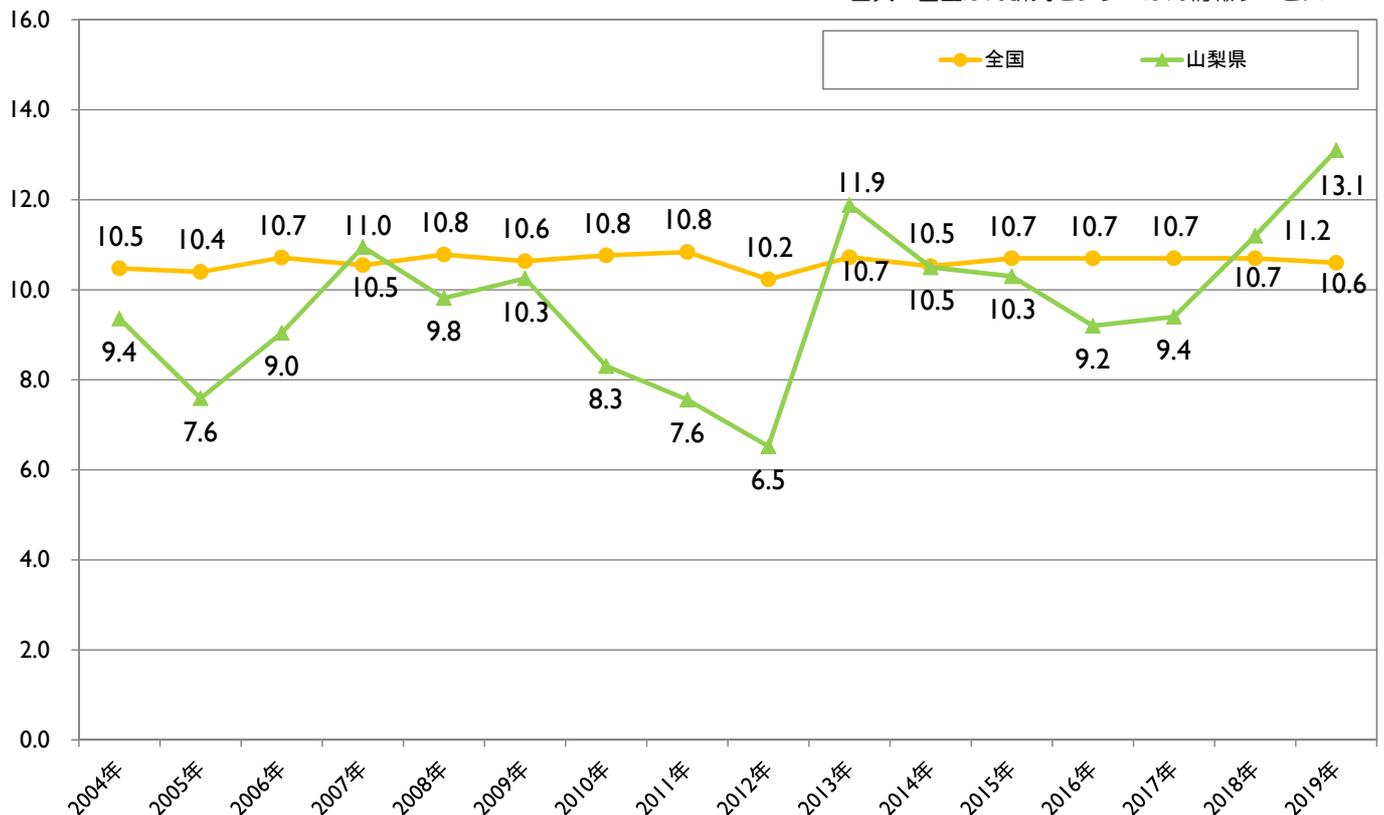


乳がんについて

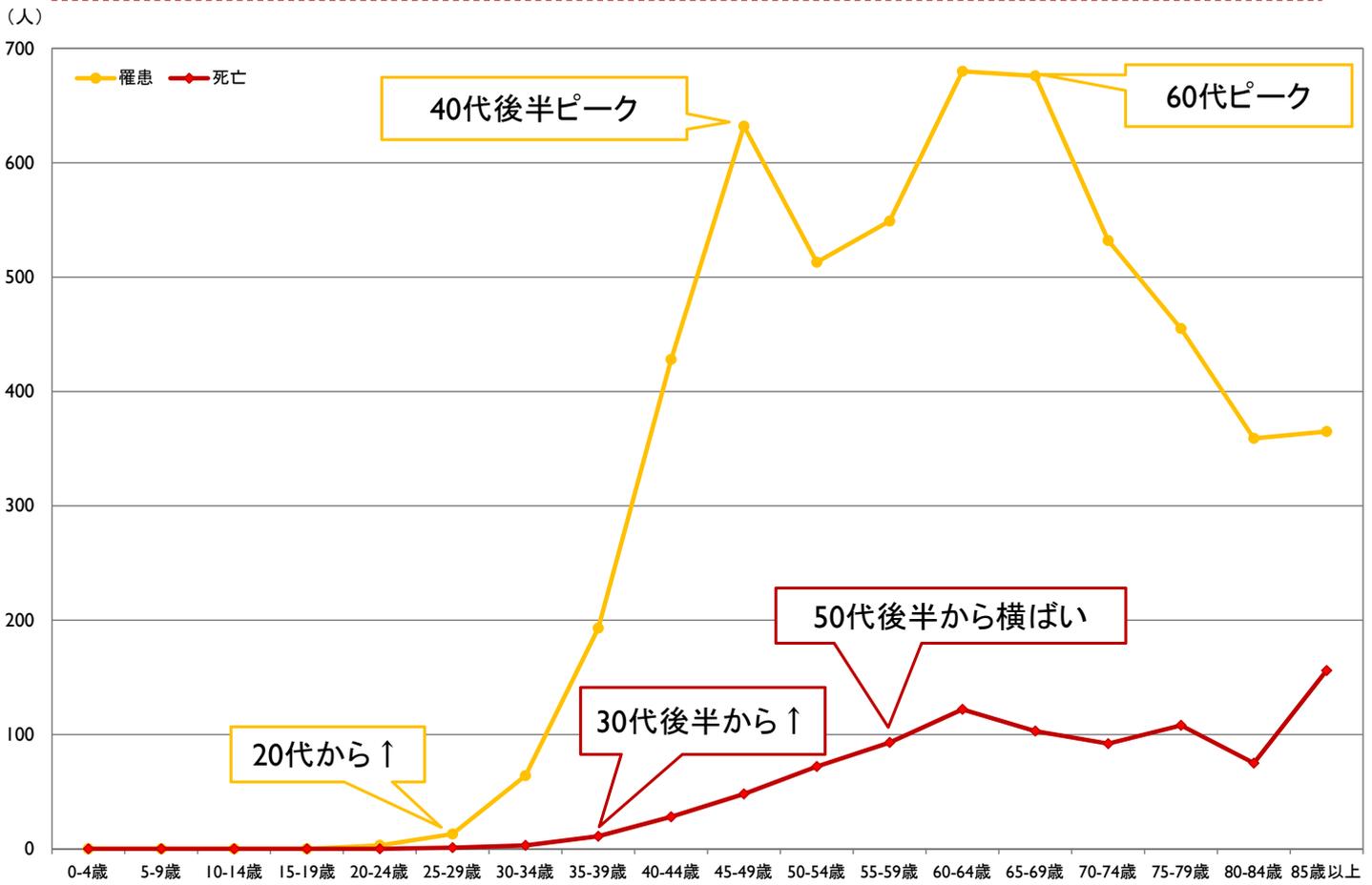
山梨県のがん統計

乳がん75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス



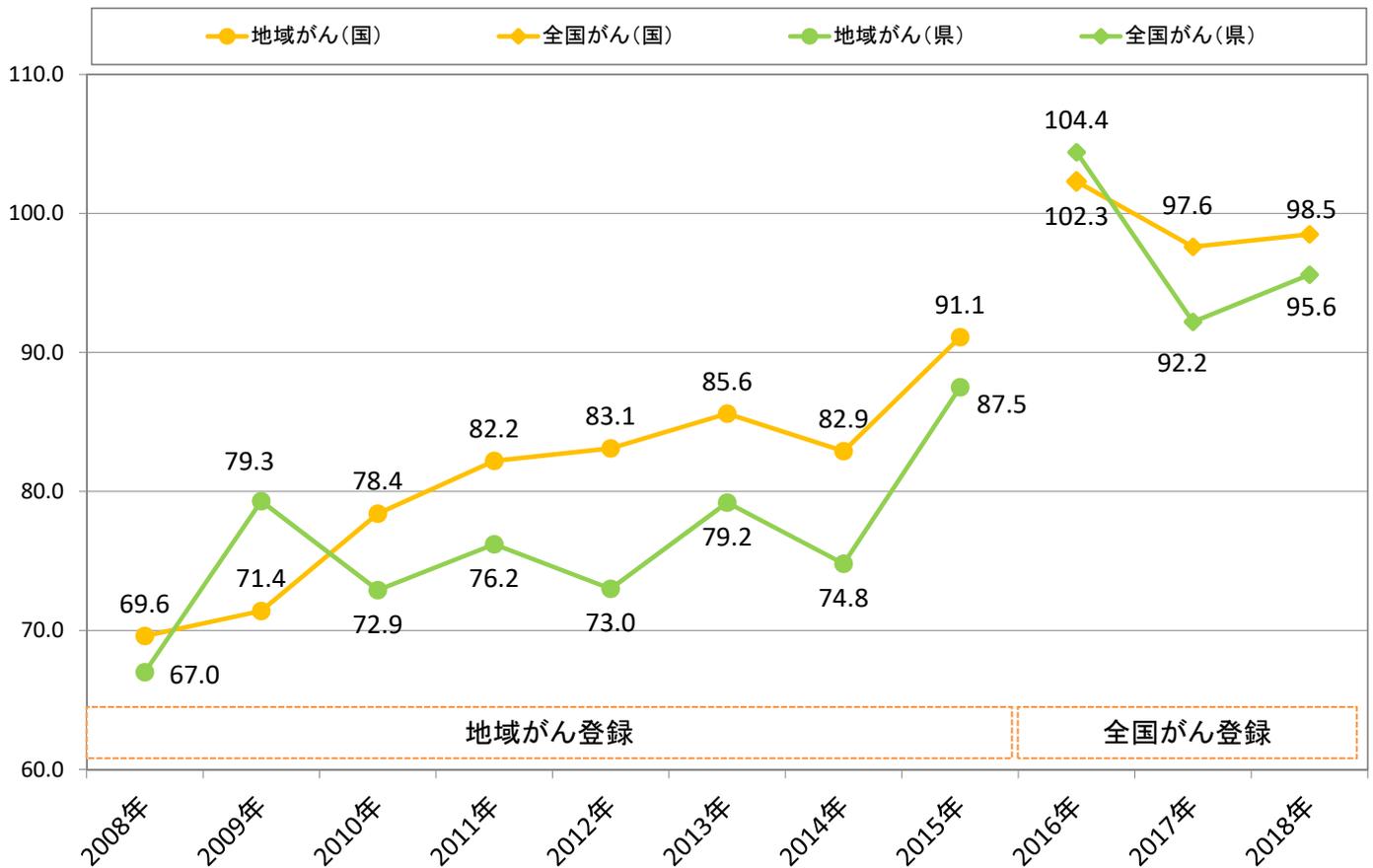
乳がん年齢階級別罹患数と死亡数の比較 (2008-2018年の合計)



出典：人口動態統計・山梨県がん罹患統計

山梨県健康増進課がん対策推進担当

乳がん年齢調整罹患率の年次推移 (人口10万対)

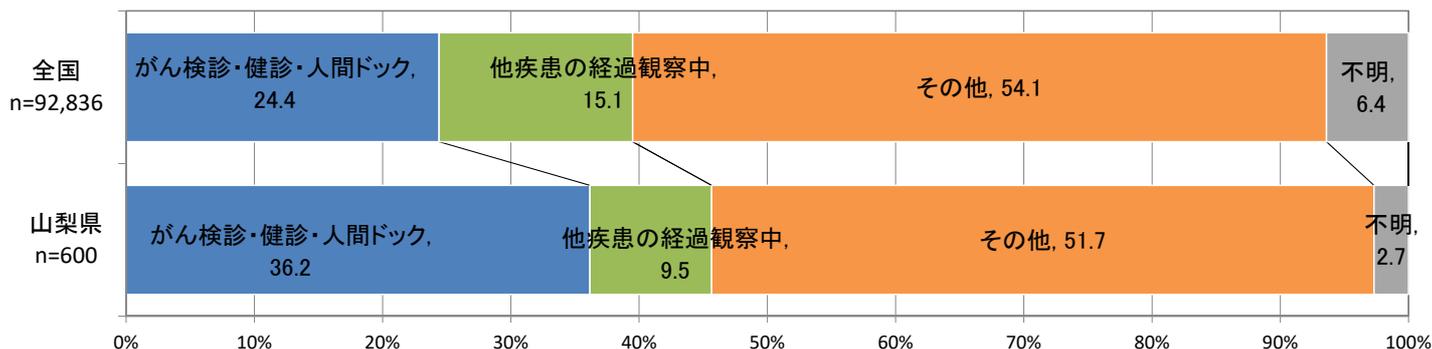


山梨県健康増進課がん対策推進担当

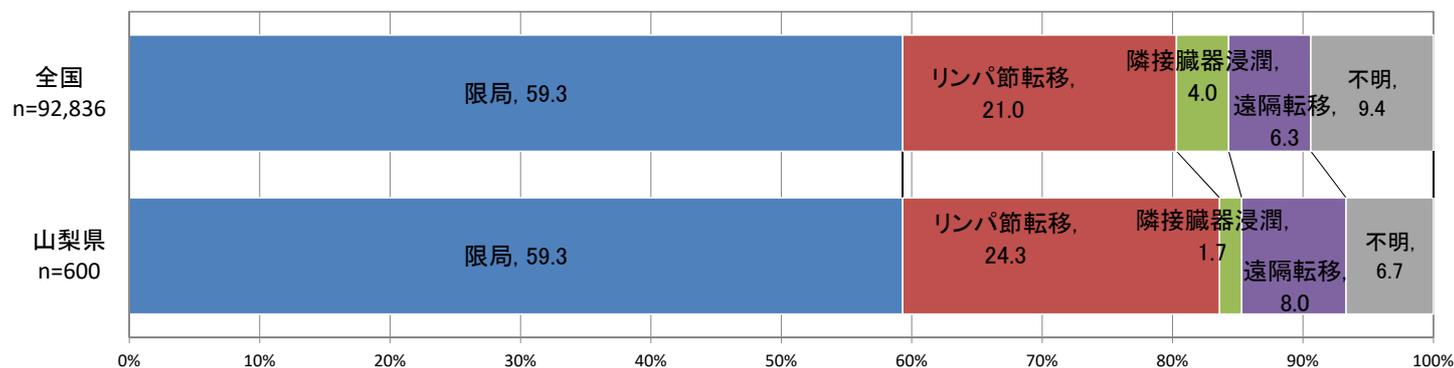
乳がん発見経緯と進行度の全国との比較(%) (上皮内がん除く)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
山梨県がん罹患集計

発見経緯(2018年)



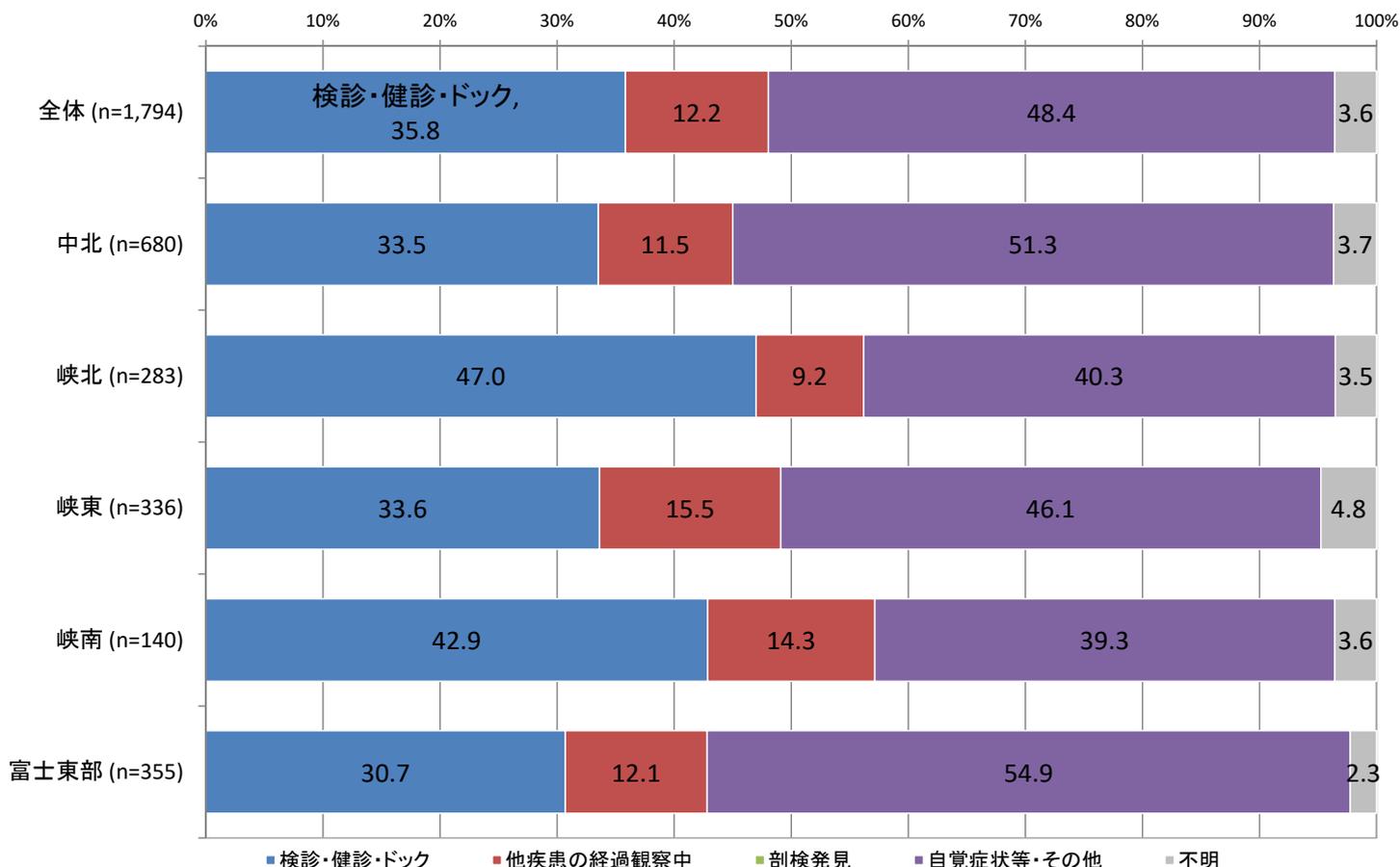
進行度(2018年)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

29

乳がん保健所管内別の発見経緯(2016~2018年)

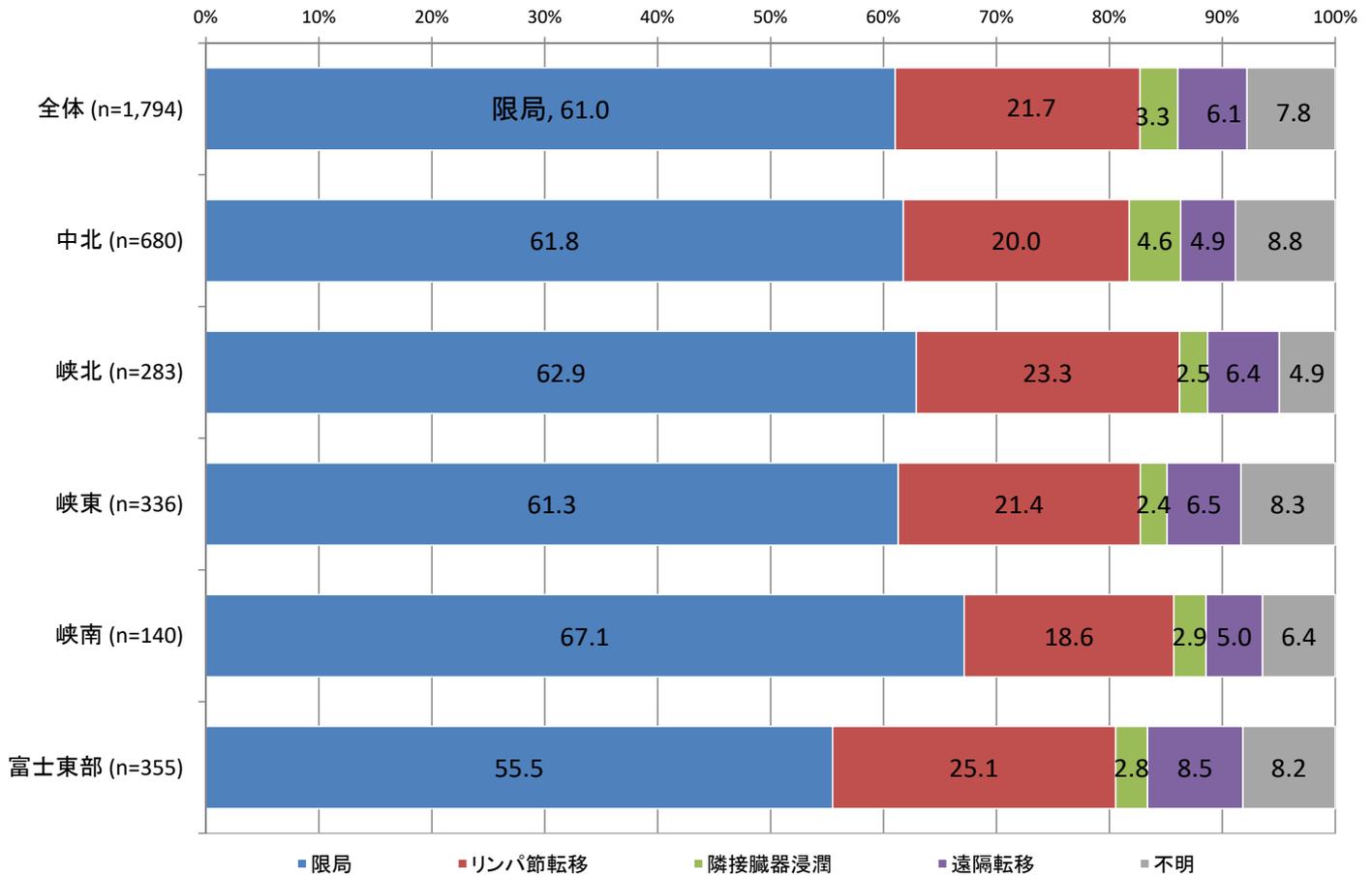


山梨県健康増進課がん対策推進担当

201

30

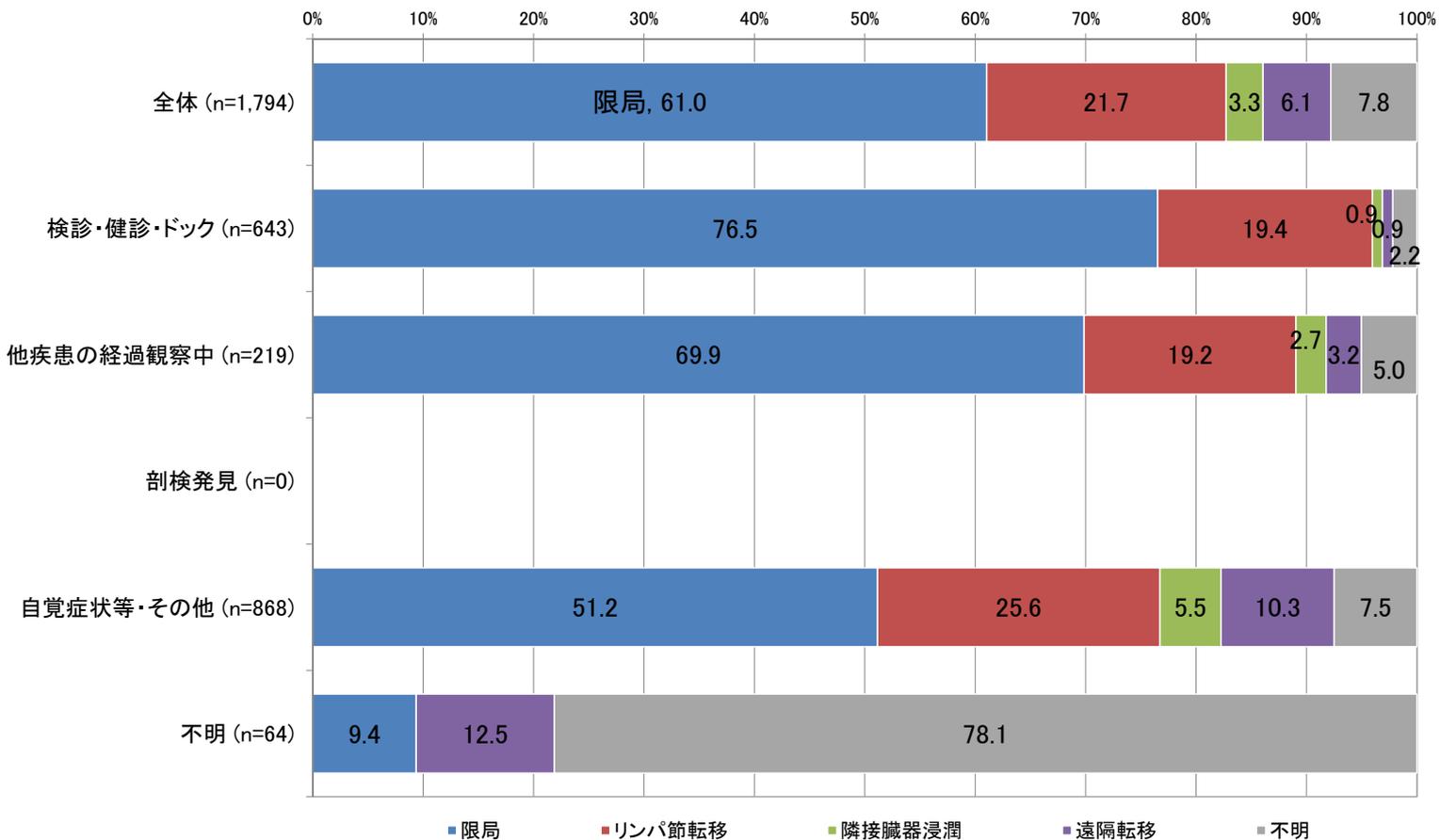
乳がん保健所管内別の進行度(2016~2018年)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

31

乳がん発見経緯別の進行度(2016~2018年)

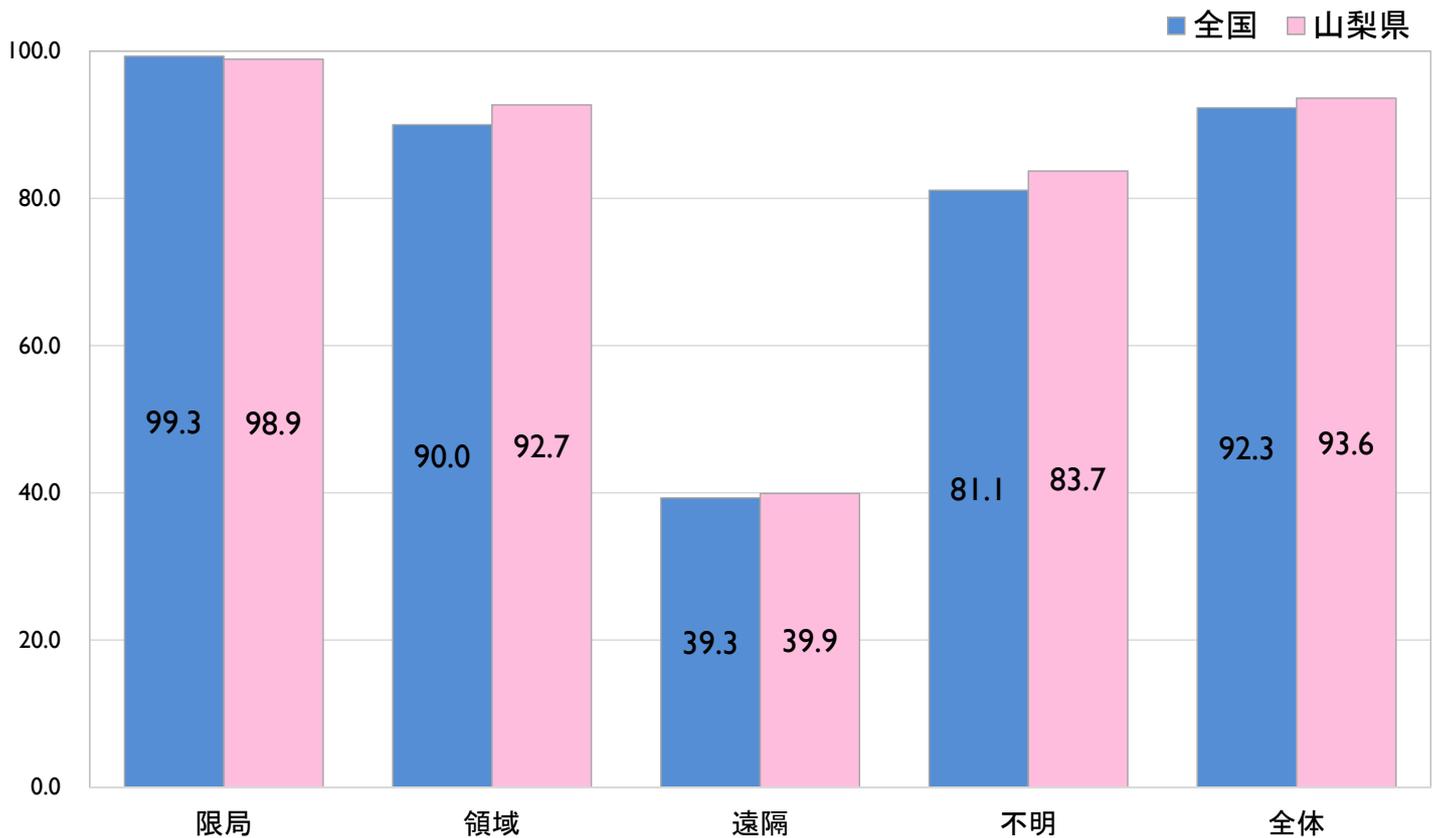


山梨県健康増進課がん対策推進担当

32

乳がん進行度別5年相対生存率(2009~2011年)

出典：2009~2011年生存率報告(MCIJ-S)



領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

山梨県健康増進課がん対策推進担当

33

乳がんのまとめ

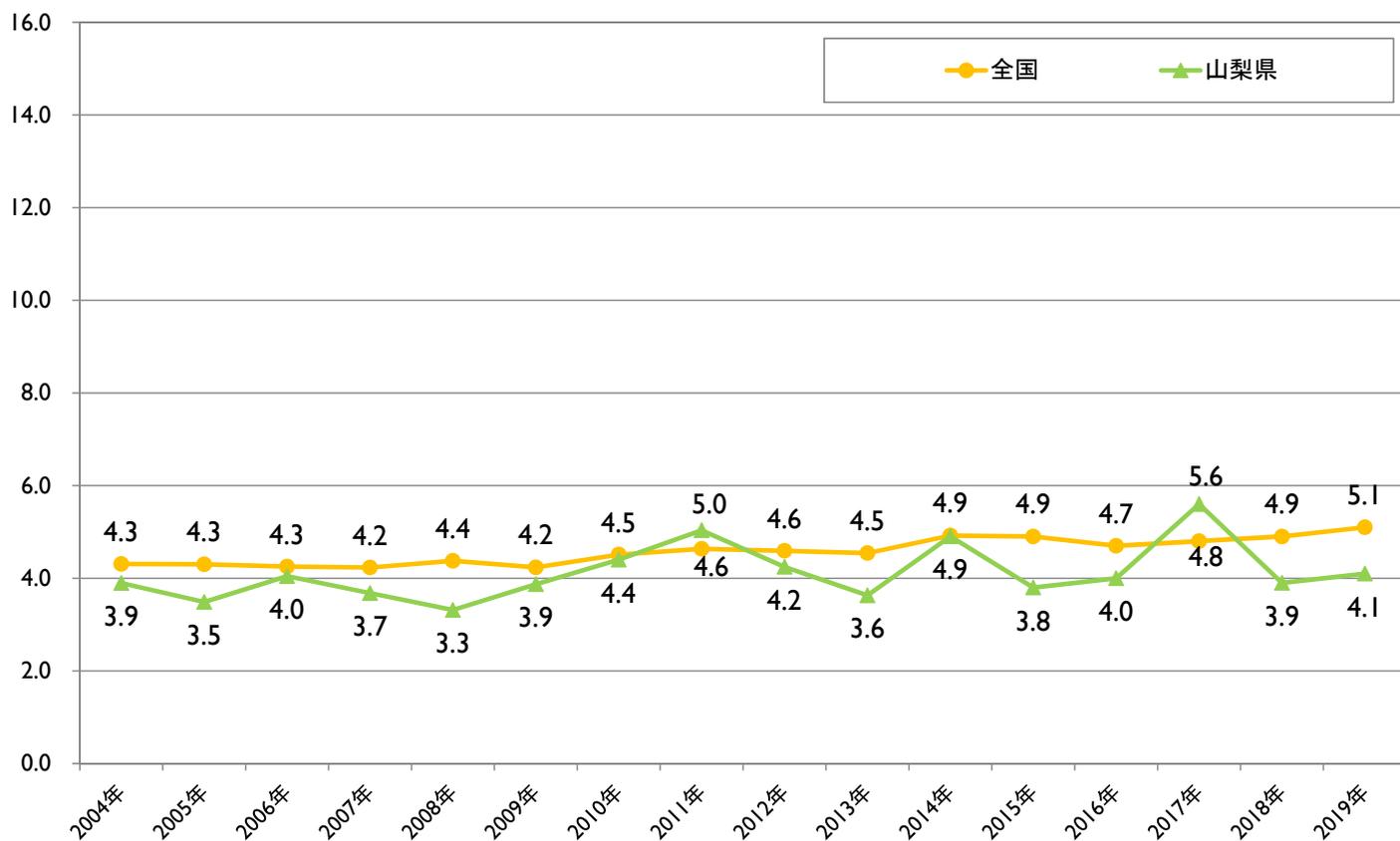
- ▶ 75歳未満年齢調整死亡率は、2017年以降増加しており、全国を2.5ポイント上回る。
- ▶ 5年相対生存率は、限局98.9%、領域92.7%であり、いずれも90%を超えている。
- ▶ 発見経緯(2016~2018)は、検診等が35.8%で他のがんに比べて高いが、自覚症状等も48.4%ある。
- ▶ 発見経緯別の進行度(2016~2018)は、自覚症状等で発見されたうち限局が51.2%で、他のがんに比べ高いことから、検診の定期受診だけでなくブレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)の啓発普及に努める必要がある。

子宮頸がんについて

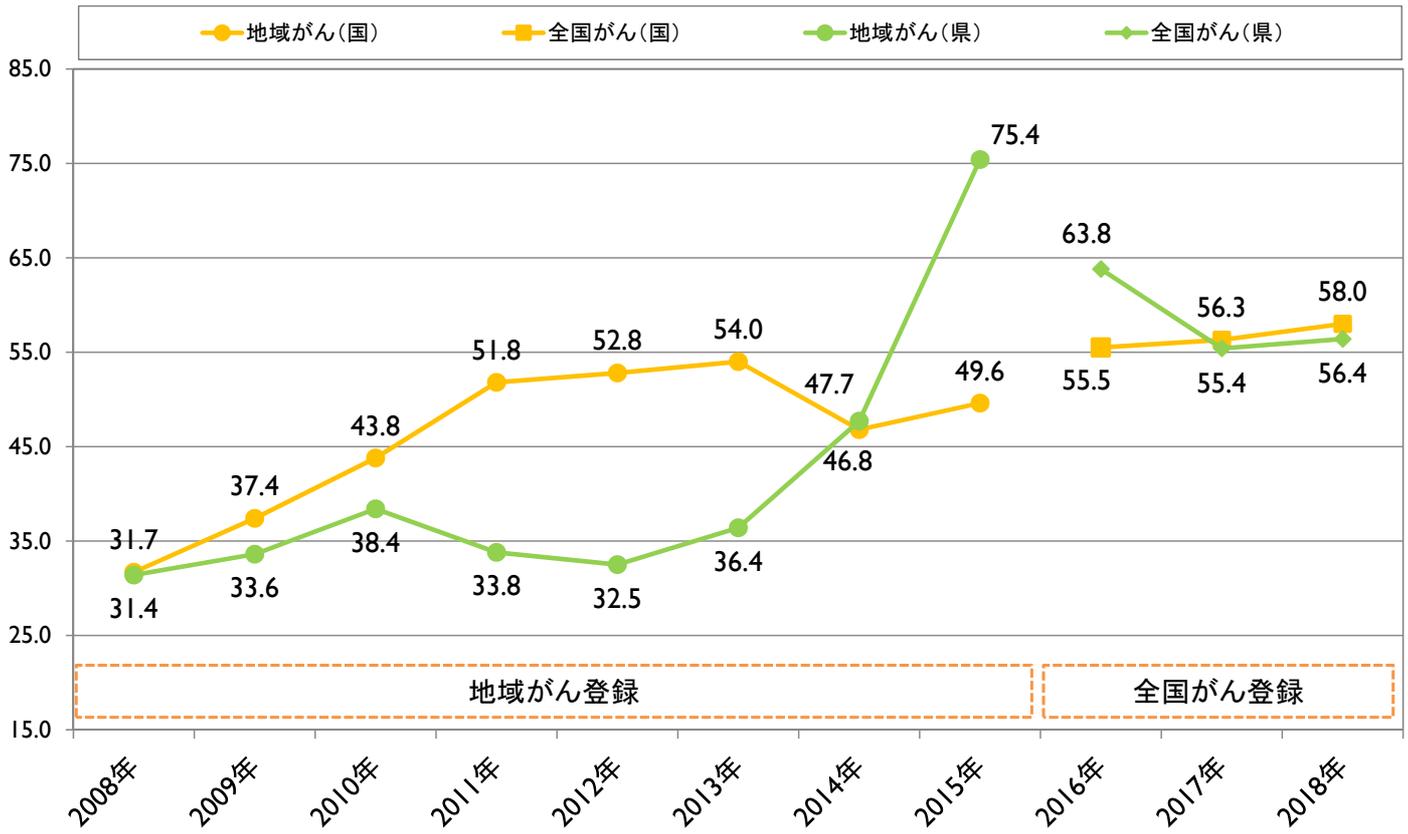
山梨県のがん統計

子宮がん75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較 (人口10万対)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス

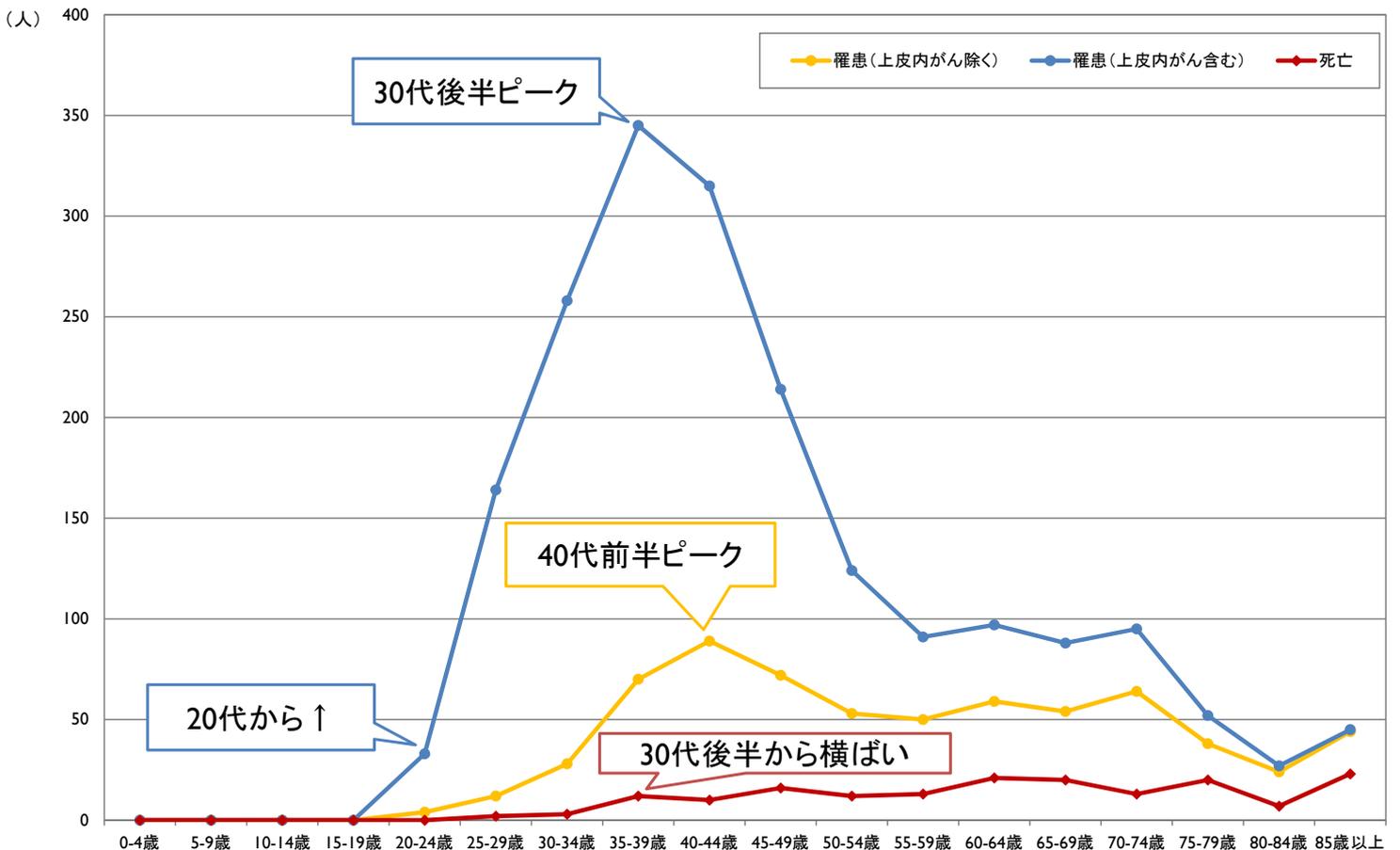


子宮頸がん(上皮内がん含む)年齢調整罹患率の年次推移 (人口10万対)



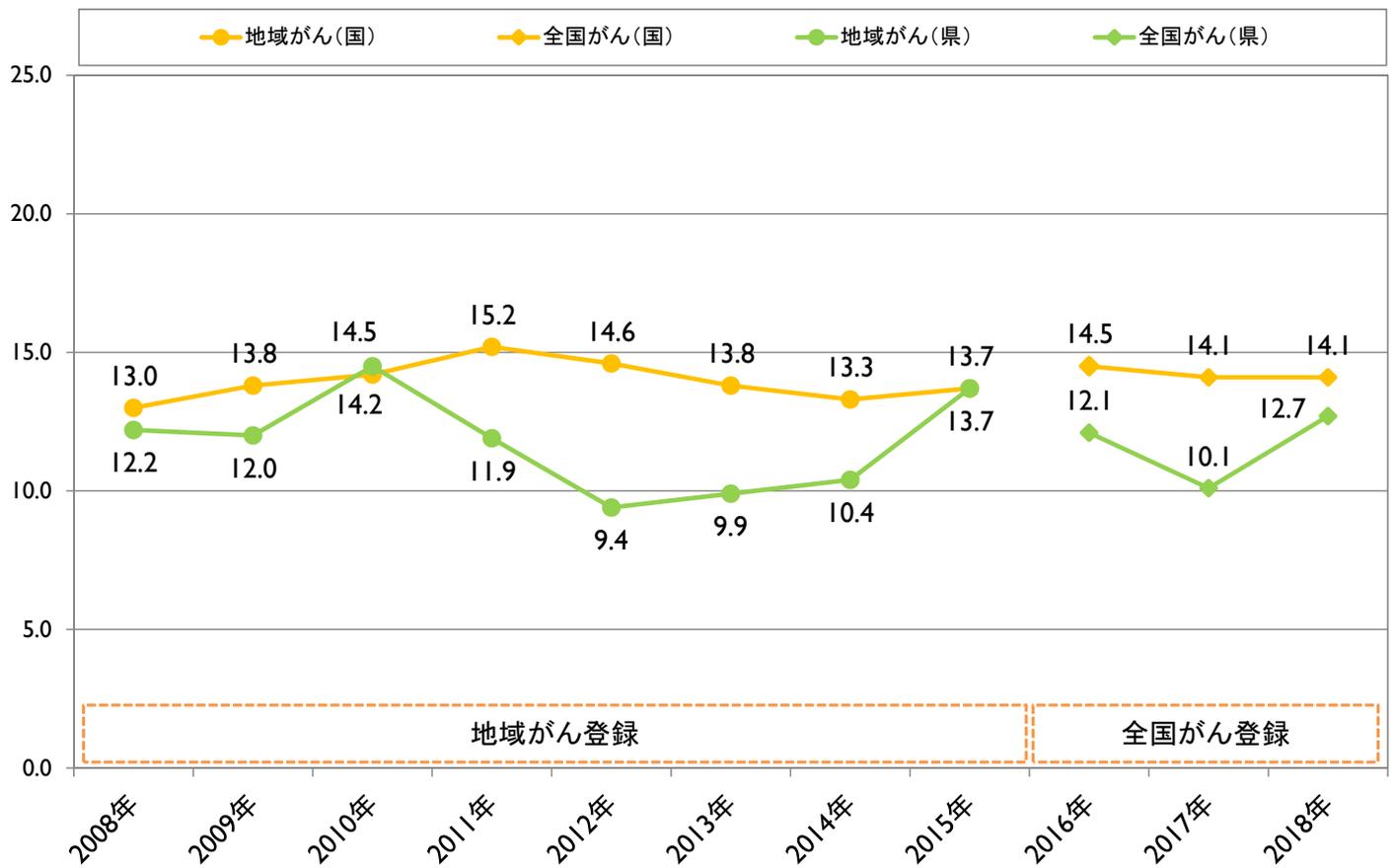
山梨県健康増進課がん対策推進担当

子宮頸がん年齢階級別罹患数と死亡数の比較(2008-2018年の合計)



出典：人口動態統計・山梨県がん罹患統計

子宮頸がん年齢調整罹患率の年次推移(人口10万対)

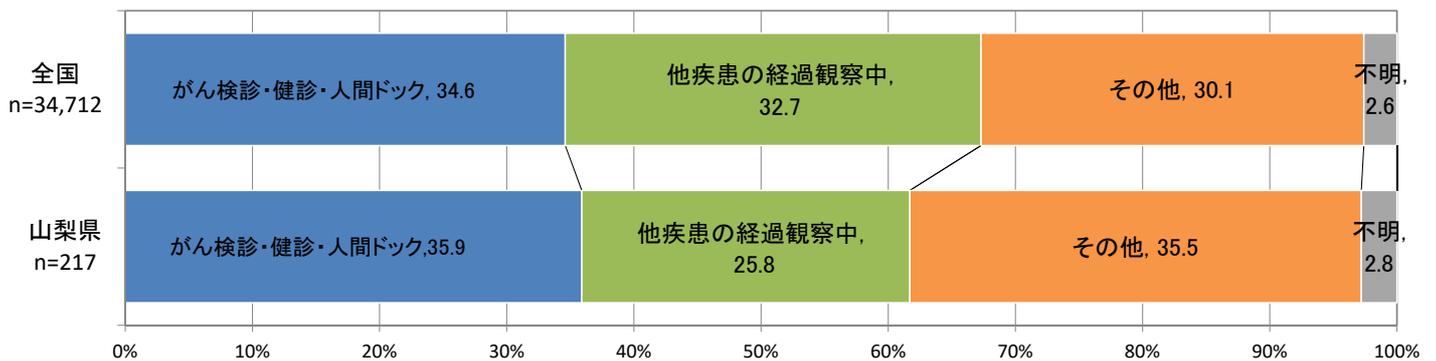


山梨県健康増進課がん対策推進担当

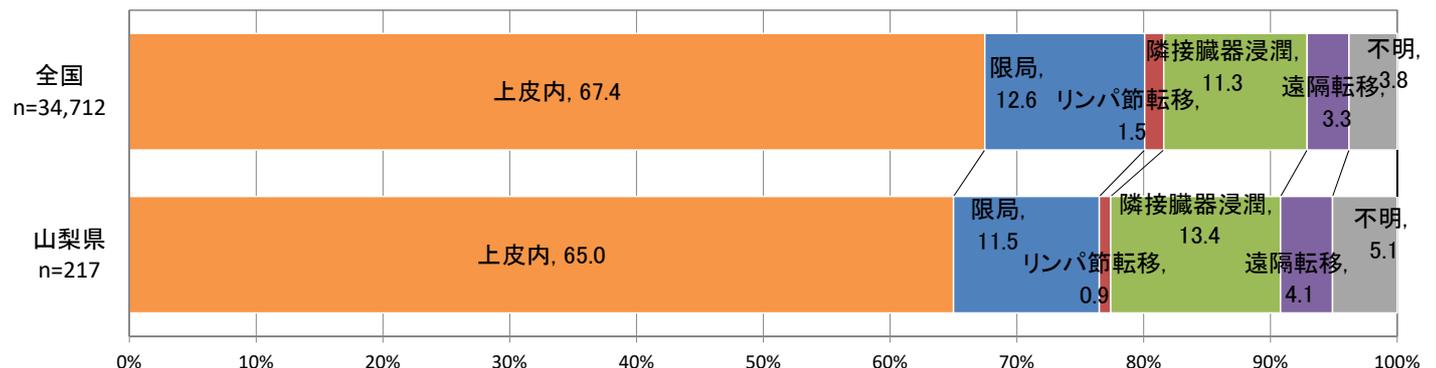
子宮頸がん(上皮内含む)発見経緯と進行度の全国との比較(%)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
山梨県がん罹患集計

発見経緯(上皮内がん含む)(2018年)



進行度(上皮内がん含む)(2018年)

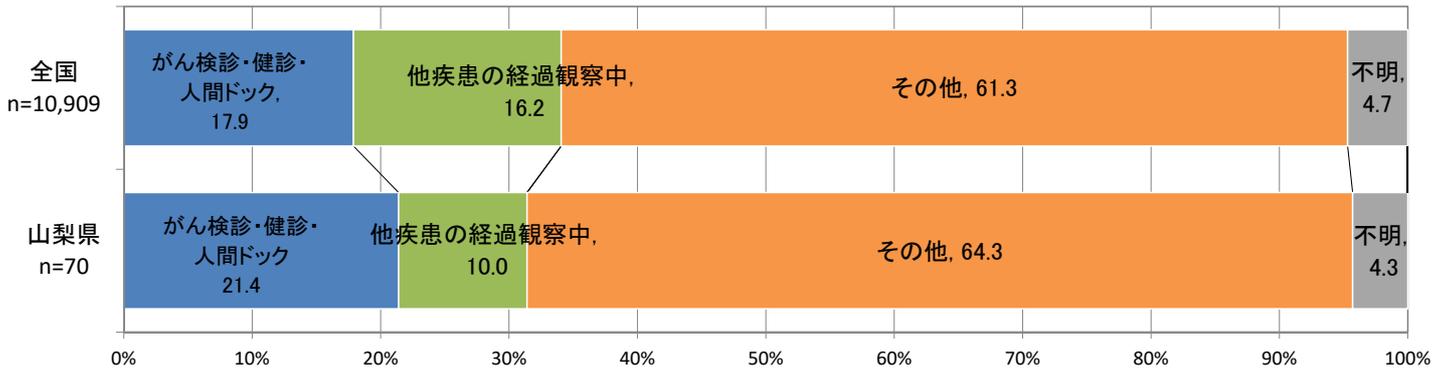


山梨県健康増進課がん対策推進担当

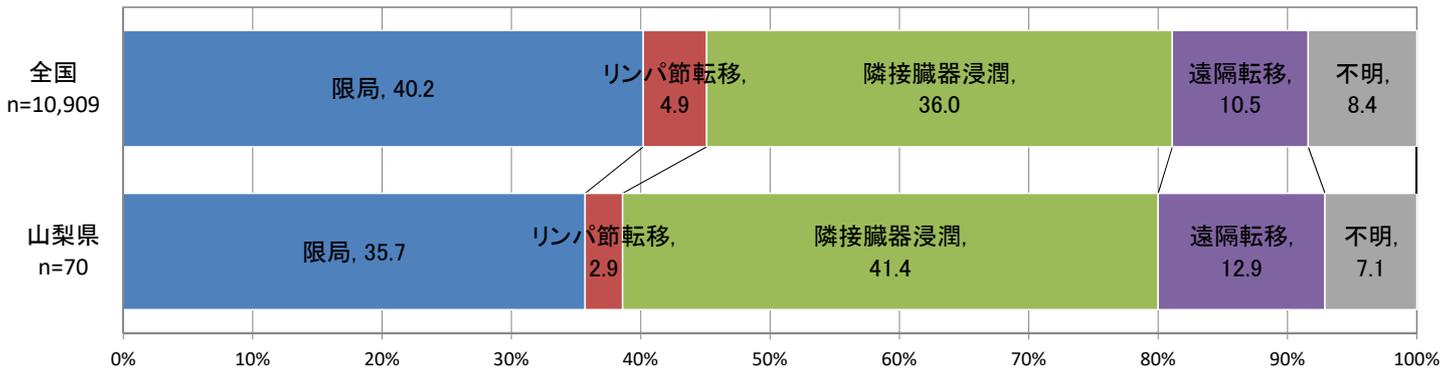
子宮頸がん発見経緯と進行度の全国との比較(%)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
山梨県がん罹患集計

発見経緯(2018年)



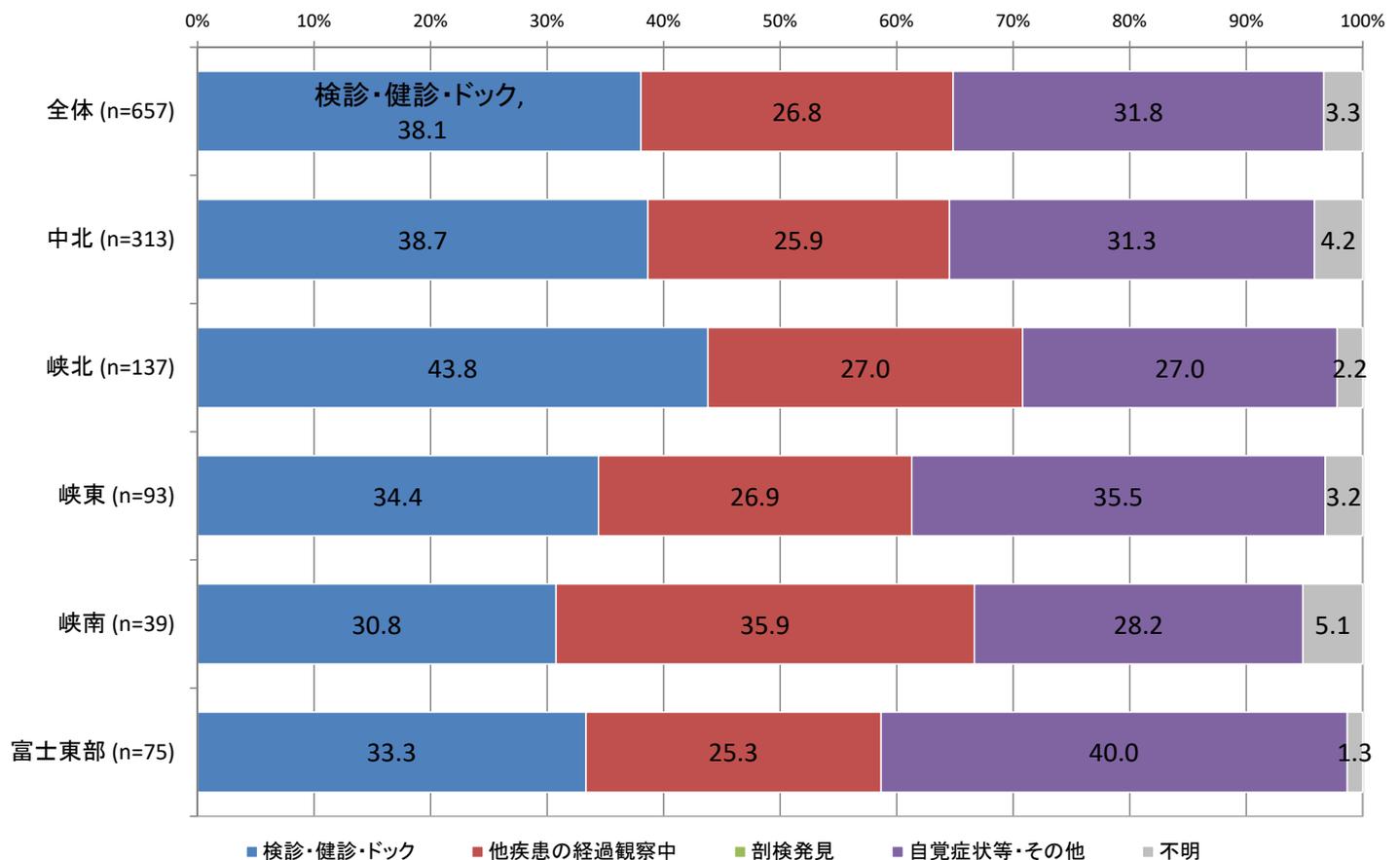
進行度(2018年)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

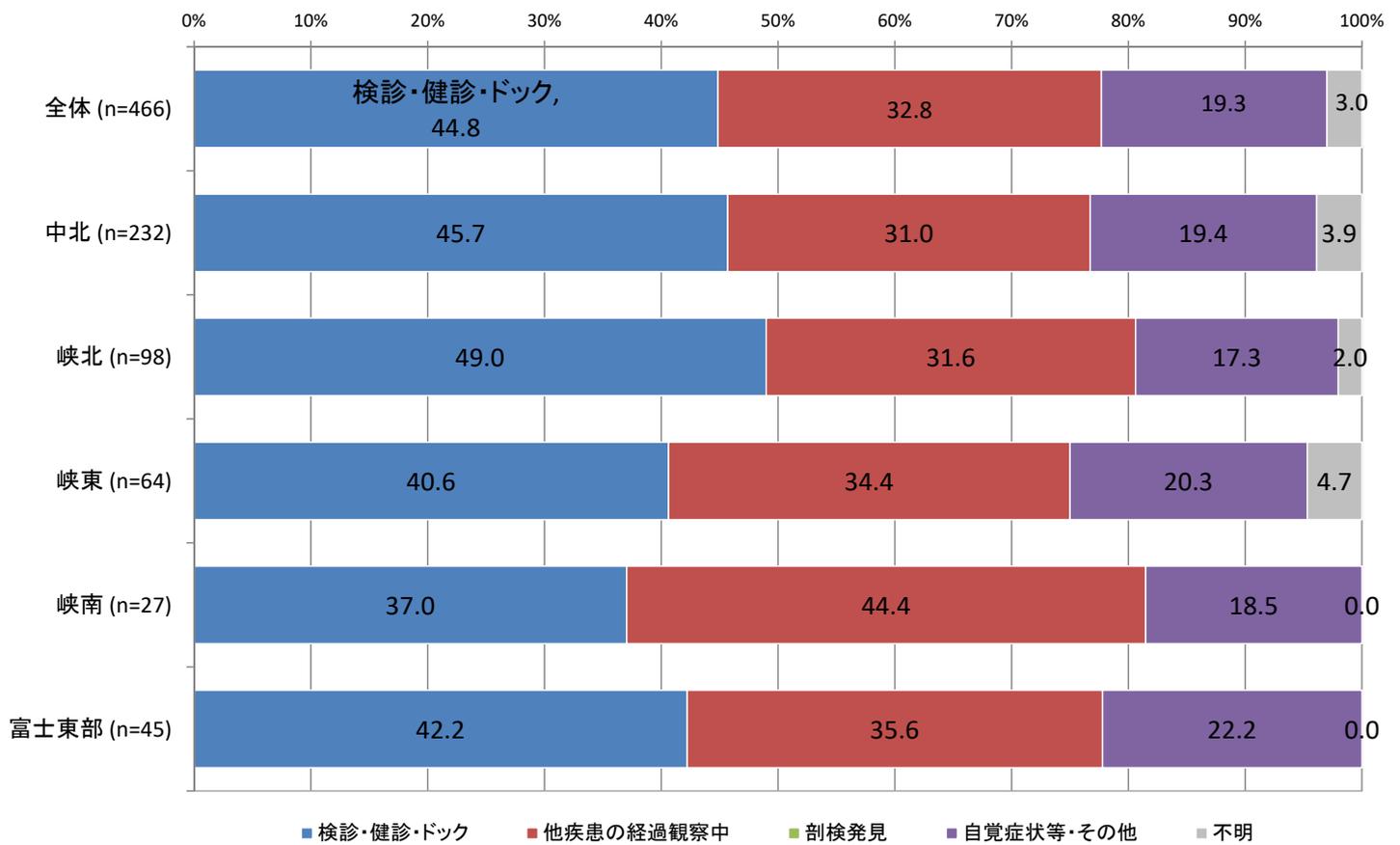
41

子宮頸がん(上皮内がん含む)保健所管内別発見経緯(2016~2018年)



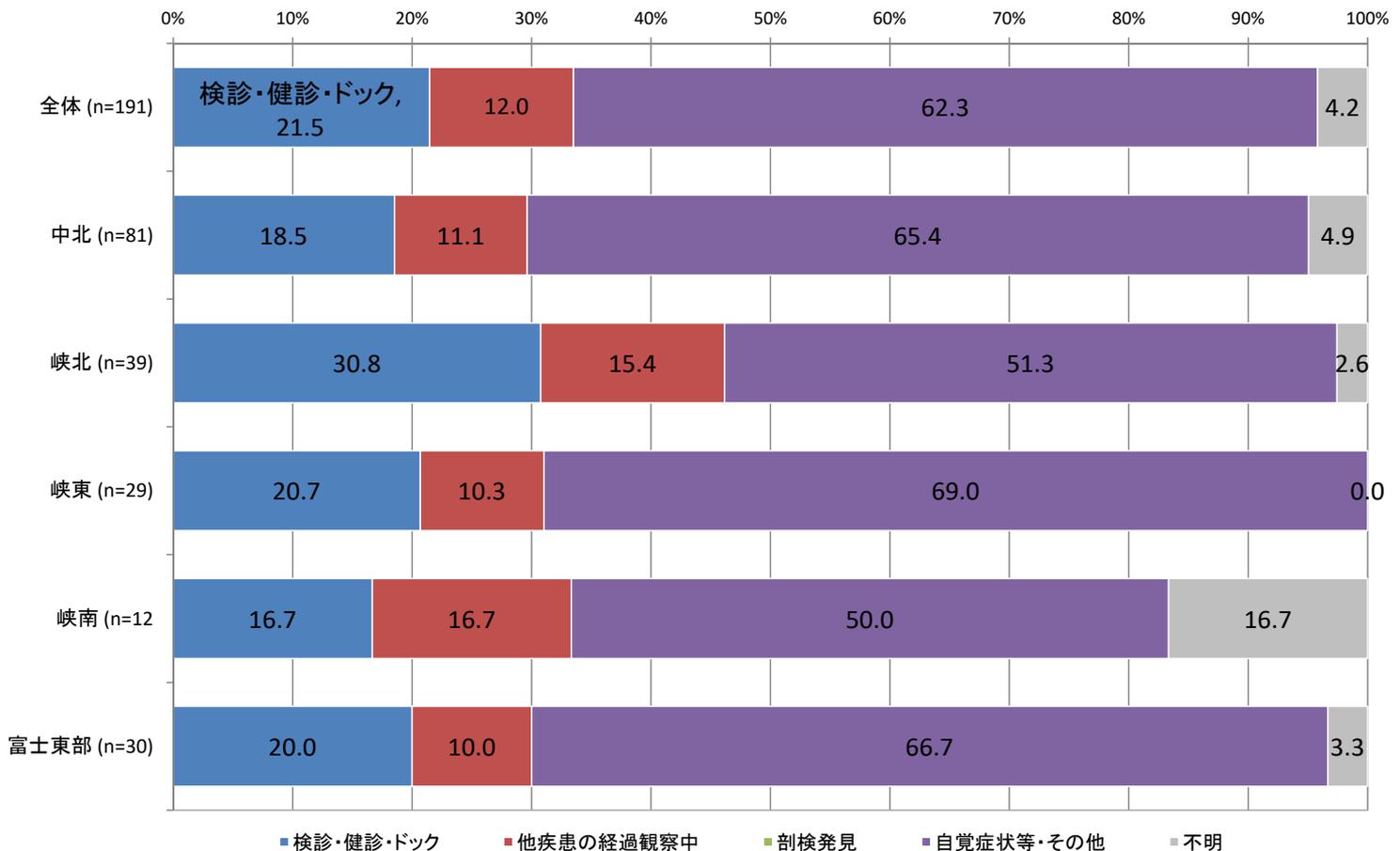
山梨県健康増進課がん対策推進担当

子宮頸がん(上皮内がんのみ)保健所管内別の発見経緯(2016~2018年)



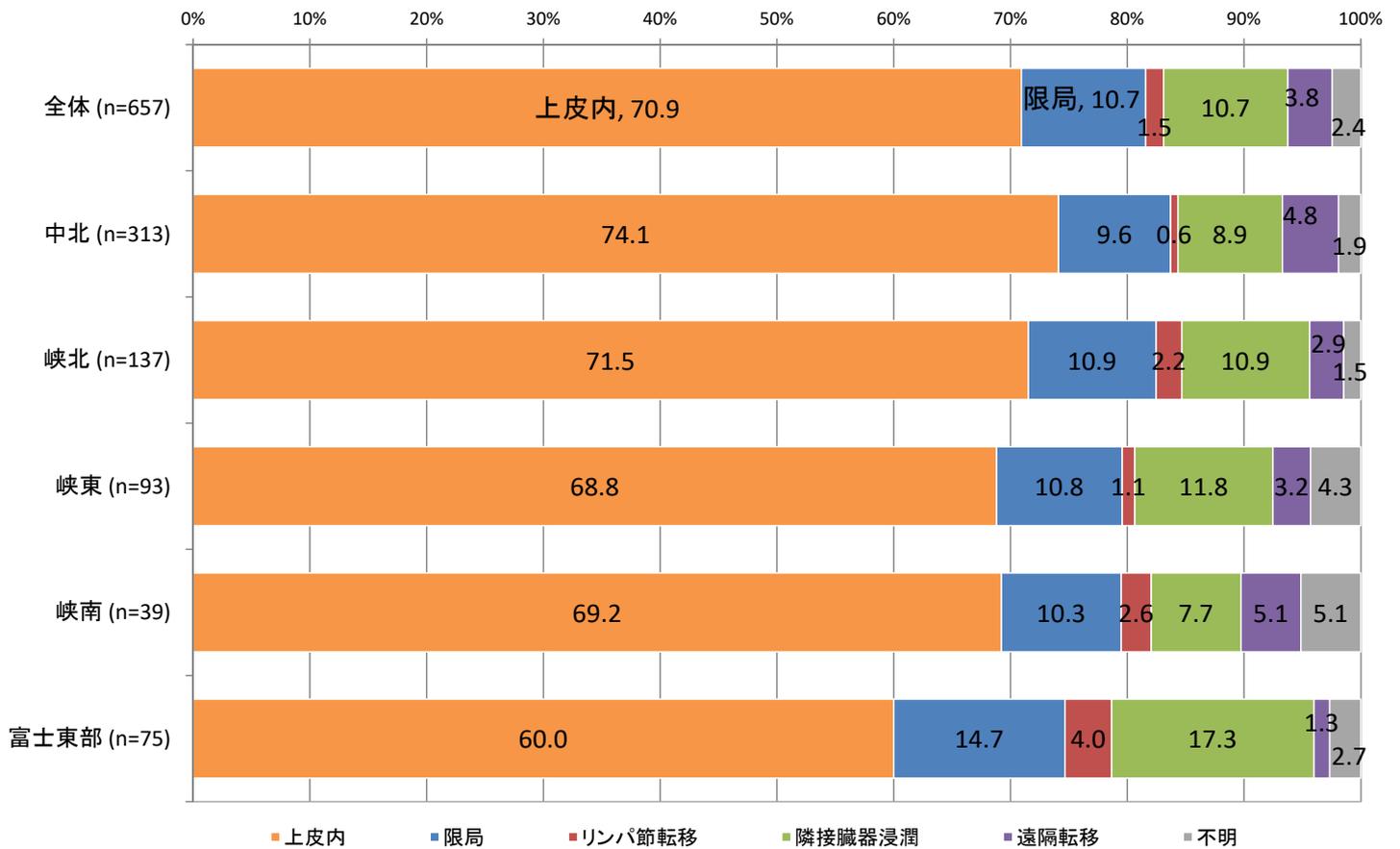
山梨県健康増進課がん対策推進担当

子宮頸がん保健所管内別発見経緯(2016~2018年)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

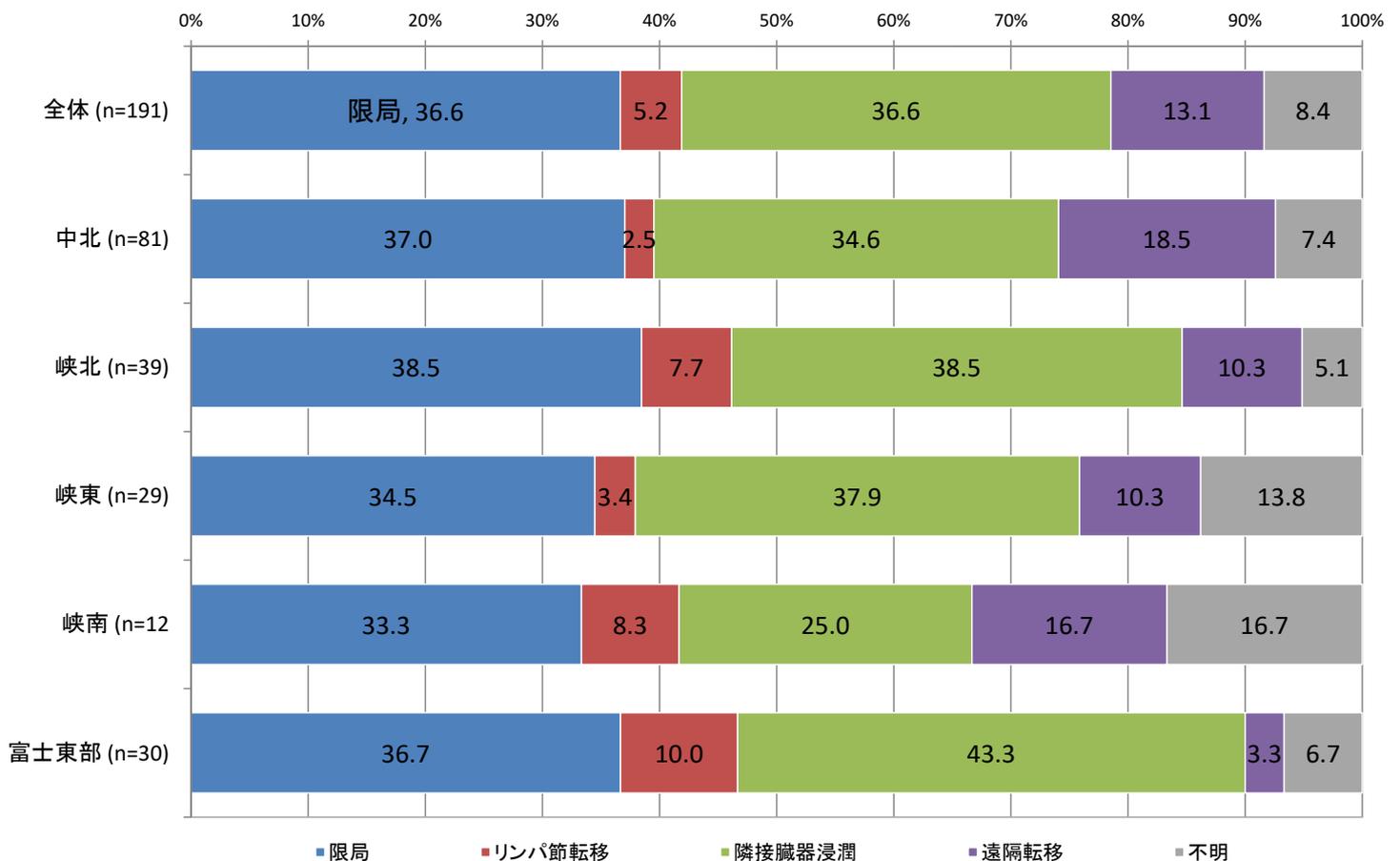
子宮頸がん（上皮内がん含む）保健所管内別の進行度（2016～2018年）



山梨県健康増進課がん対策推進担当

45

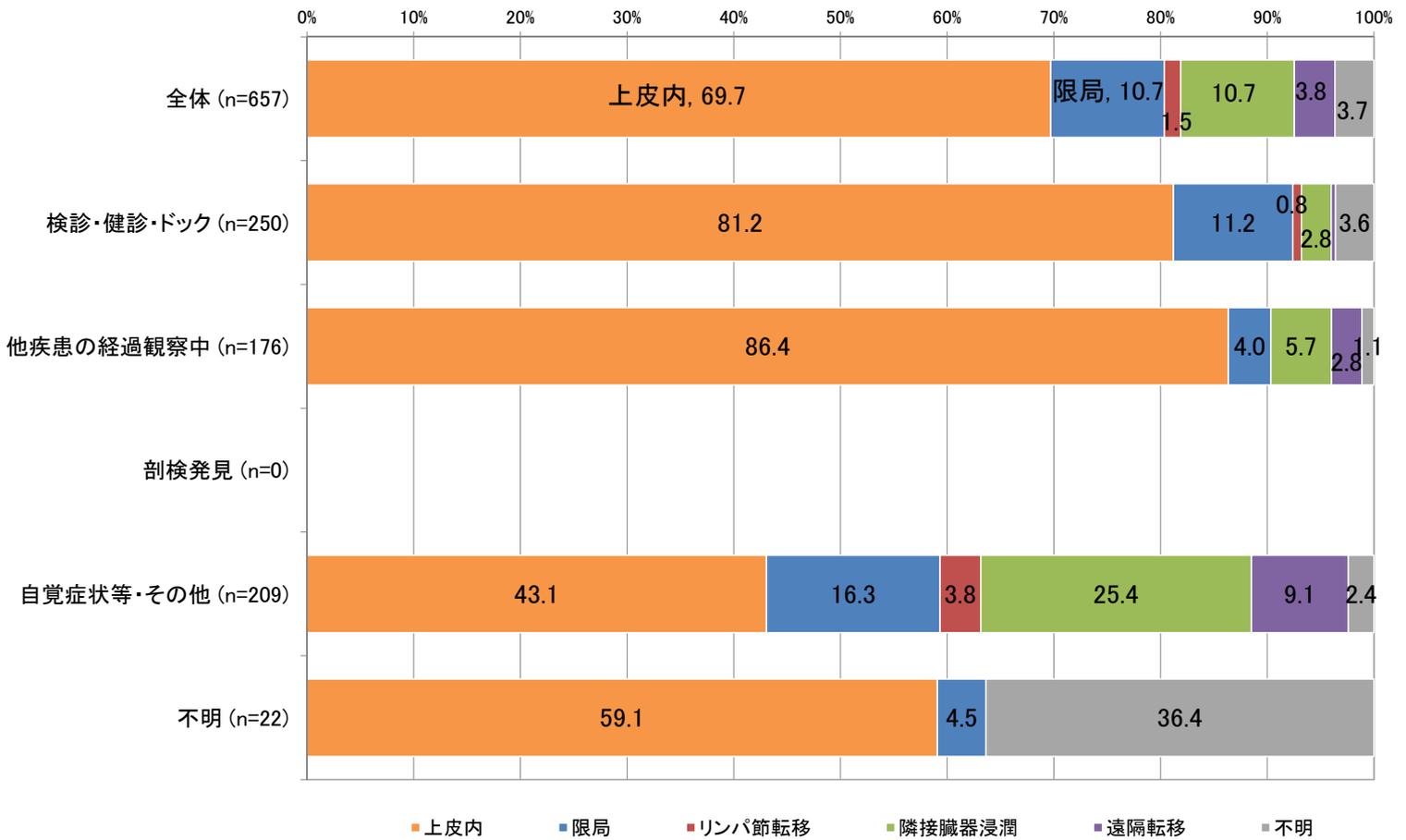
子宮頸がん保健所管内別の進行度（2016～2018年）



山梨県健康増進課がん対策推進担当

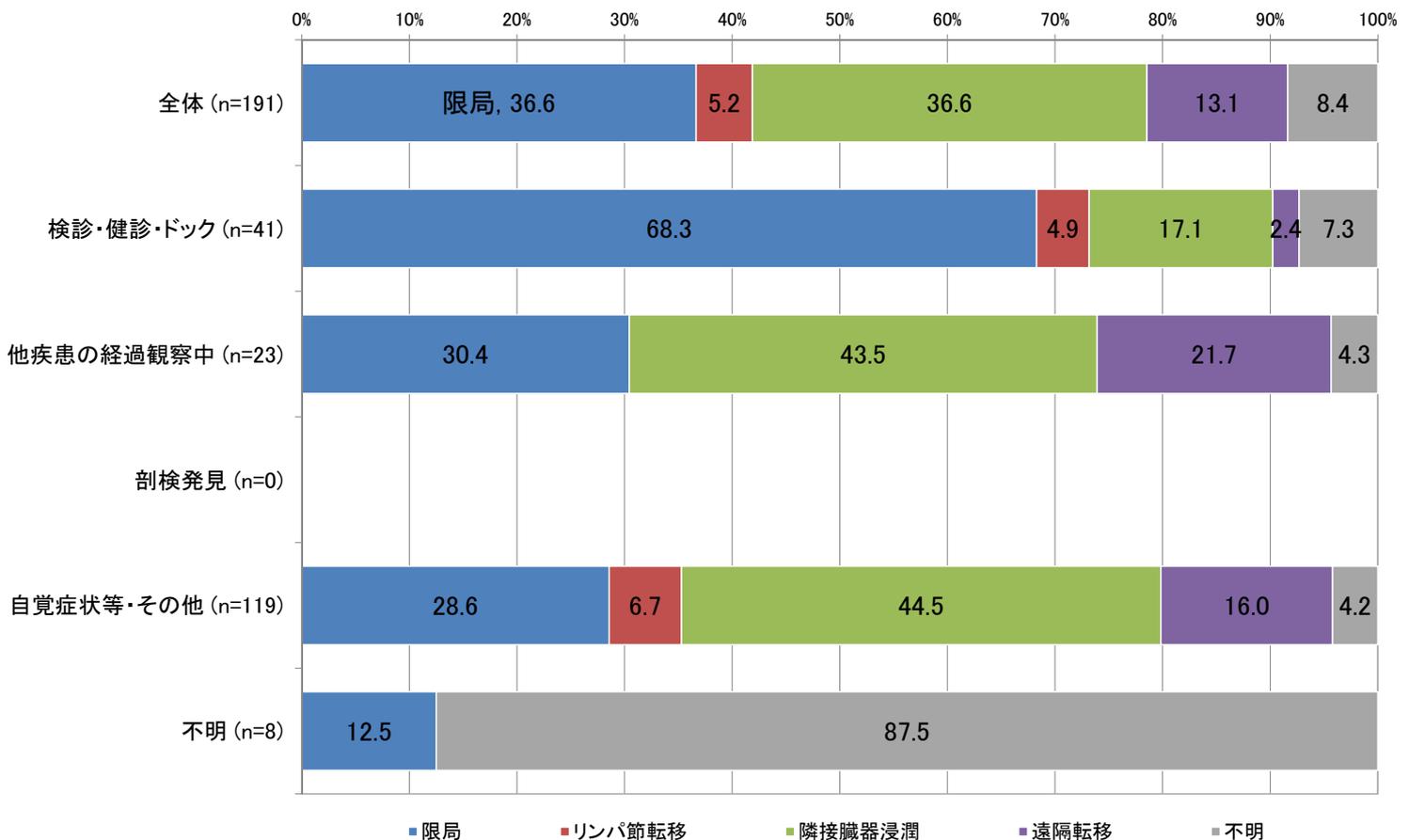
46

子宮頸がん(上皮内がん含む) 発見経緯別の進行度 (2016~2018年)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

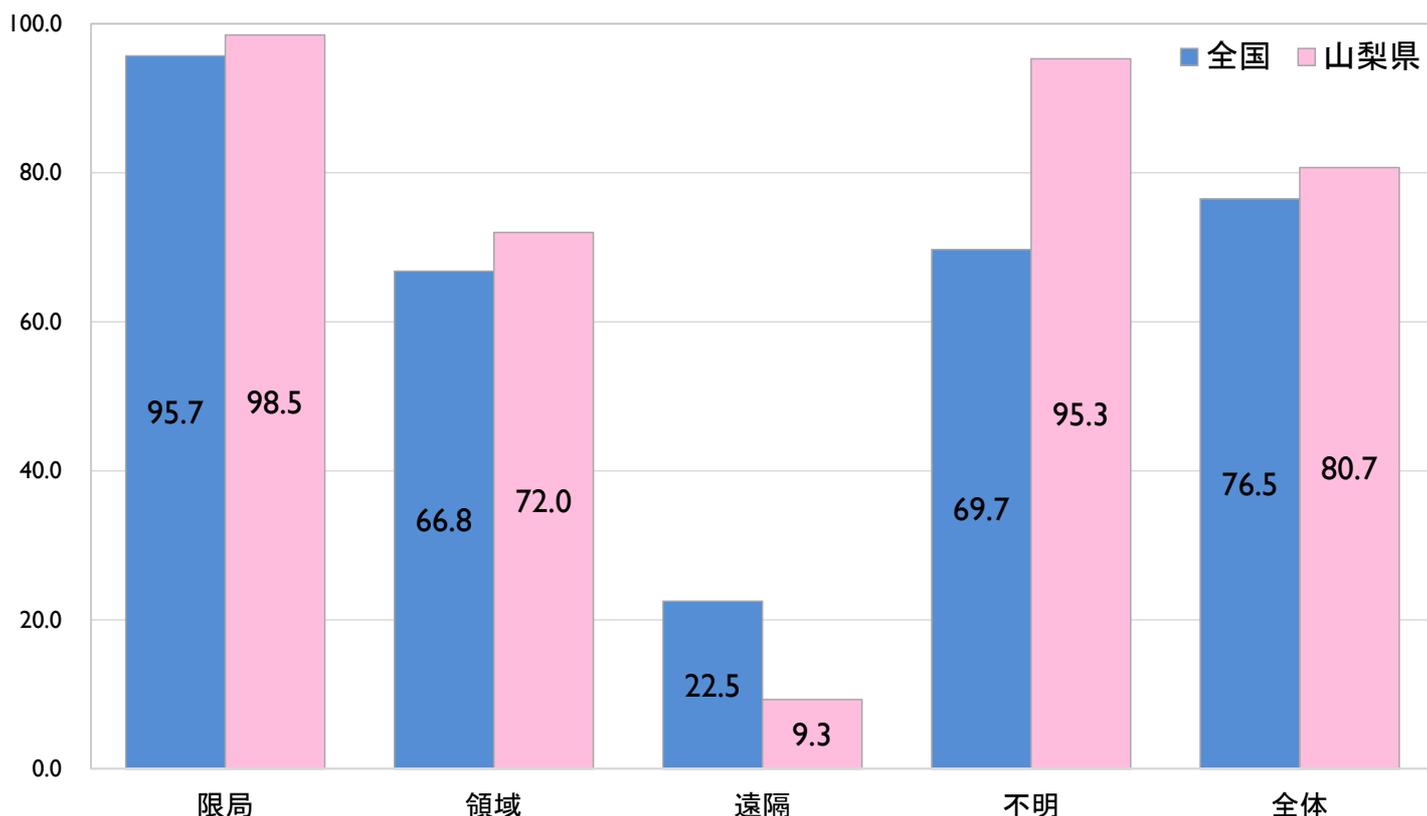
子宮頸がん発見経緯別の進行度 (2016~2018年)



山梨県健康増進課がん対策推進担当

子宮頸がん進行度別5年相対生存率（2009～2011年）（%）

出典：2009～2011年生存率報告（MCIJ-S）



山梨県健康増進課がん対策推進担当

領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

49

子宮頸がん（上皮内がん含む）まとめ

- ▶ 75歳未満年齢調整死亡率は、年毎に増減はあるが長期的に横ばいで推移している。
- ▶ 年齢階級別罹患数は、上皮内がんを含む場合は30代後半がピークであることから、若年層への検診受診勧奨を強化する必要がある。
- ▶ 上皮内がんを含む発見経緯別の進行度（2016～2018）は、検診等で発見されたうち上皮内がん及び限局が9割を占めるのに対し、自覚症状等ではこれらが6割にとどまる。
- ▶ 5年相対生存率は、限局が98.5%であるが、領域では72.0%に減少しており、早期発見が重要である。